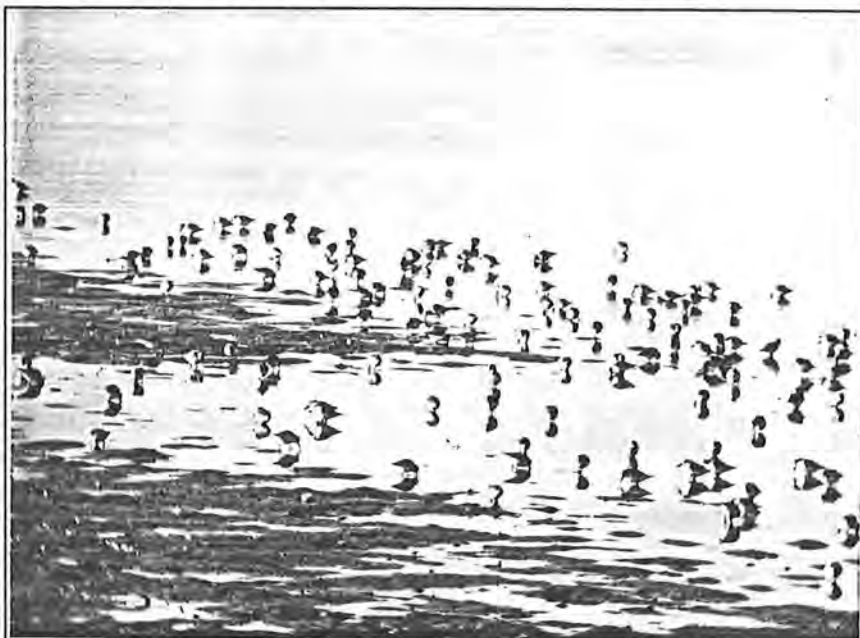


山口さんのナワ張り

ウィンドサーフィンのボードが欲しい



今、この辺り帯は、スキムをなす程度の鳥の足跡だらけになっている。

ここは、山口昭三さんの「ナワ張り」としている所です。つまり、クリーン作戦を続けている所です。場所は、草地と湾岸が接する所。山口さんは更に、遊歩道沿いにもクリーン作戦をなさってくれています。ハマシギが千羽以上群がって、盛んにエサをついばんでいる。かつてここは、泥が腐りかけていたのですが、2年前からゴミを拾ってききました。又、カニの群と姿を見せ始めました。

今の谷津干潟では、歩いて拾うゴミよりも、サーフボードによる鳥スキーで拾うゴミの量の方が、ずっと多くなっています。一代目の鳥スキーは、さんざんゴミ使ったので、文字通り、満身創痍のボロくになっしまいました。重いゴミを積んで滑っている時、あちこちにある流木や杭や石に乗り上げていたからです。現在、二代目がかんばっています。一代目の時よりもゴミが少ないので、いくらかは長持ちするでしょう。この先、鳥スキーの必要性と重要性は、ますます強まってくると思います。谷津干潟の面積の多くは鳥スキ

ーによってクリーン作戦が展開されています。これから陽気がよくなるにつれ、鳥スキーは干潟を縦横に滑りまくるでしょう。それに、今使っている二代目の寿命も、時間の問題です。次のを捜しています。経験上、今のサーフボードは、これくらいと必要で、使っていきますが、ちょっと小さすぎるのと、乗っては水に浮けないので、水に弱いということがあつたのです。潮が来て、水深が10cm位になると、至って能率が悪いのです。この際、もっと大きくて、水に浮かんでこいで行けるウィンドサーフィンのボードが、どうしても欲しいのです。

ふかんど

オ361号

1986.3.12

谷津干潟愛護研究会
〒275 習志野市谷津三二二五十一
電話〇四七四一五〇四四
文責 本林田三郎

会費年2000

創立
1974.12.9

事務局 0474・517076 中村容子

年々、この傾向は強まっています。

安く手に入る所がありましたら、どうか教えて下さい。



老人の一念おもしろいや

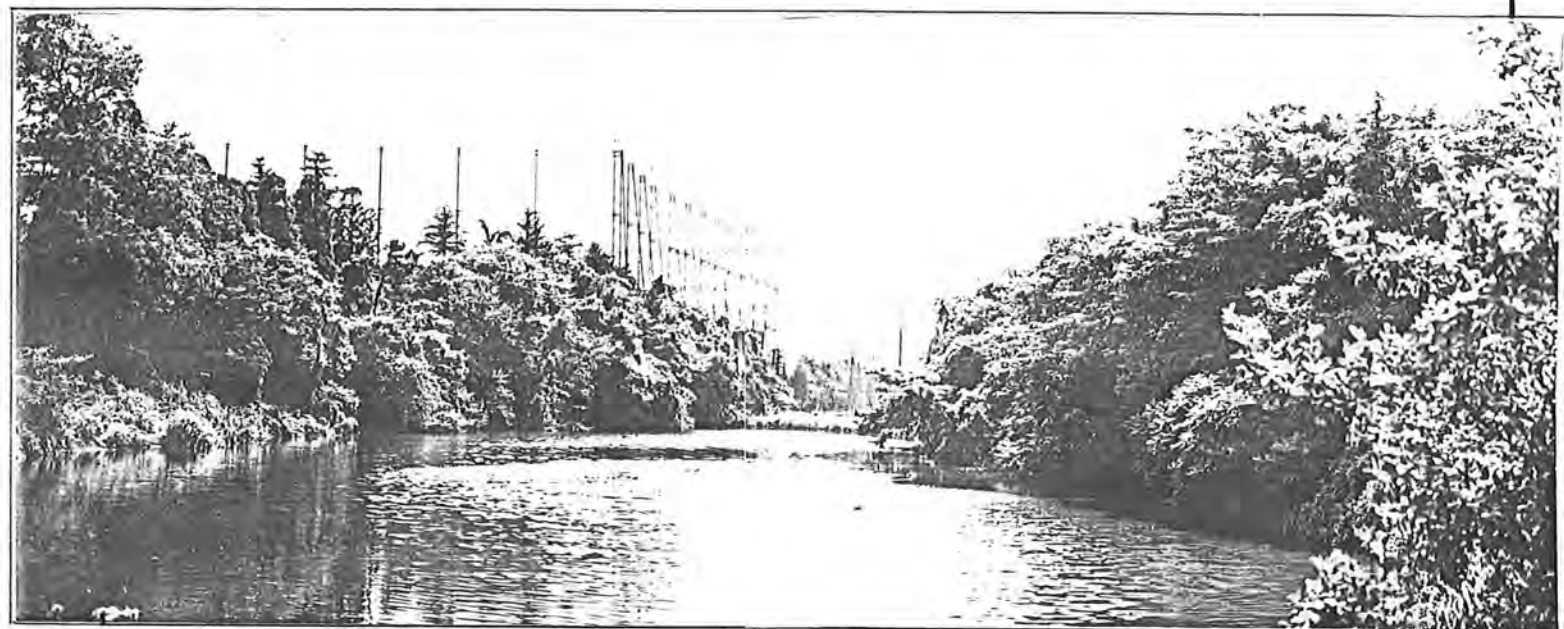
この写真の沼のある所は、八千代市の「新木戸」。うっそうたる木立に囲まれていて、この近辺ではとてとめざうしく良い所である。

水ど中々きれいで、水草をはじめ、ヤゴ、フナ、コイ、メダカ、カメ、クチボソ、ミズスマシなど、水の生きものがたくさんすんでいる。

この沼のことは、駅で客待ちしている時に、同じ会社の運転手から聞かされて知った。

今から10年位前だそう。この沼は汚なくて臭くて、ゴミは捨てられ放題であったとのこと。住民から苦情が出て、市を埋めにかかったという。その時、一人の老人が言ったという。「ちよっと待ってくれ、きれいにするから。3年固待ってくれ。私が何とかきれいにするから」と。そして、一輪車ヤスコップでコツ／＼やり始めて、とうとう市の計画を変えさせたという。

早速見に行くと、私は心を強くしたのであった。



その人、今ではこの管理人になっているという。

人は、そう呼ぶ、「津田沼おじさん」。この津田沼おじさん、身なりはこじぎ、そのもの。いつか、国電津田沼駅に、特に北口に多くいる。そしていつか、そうじなどのゴミ拾いや、「全く一人だけの」交通整理をしている。名前や、経歴は誰と知らない。あるお客さんは言った、「運転手さん、あの人はねえ、頭はしっかりしているよ。この前、ヤキトリ屋に誘ってちよっと話をしたんだけどねえ、ちゃんとまともな話しをするんだよねえ。あらあ、ちよっとわかんない人物だよー」と。

“ドリル”の如きか、谷津干潟クリーン作戦

ふかんど

号362

1986.3.30

谷津干潟愛護研究会
 千羽 習志野市谷津三二二五〇一
 電話〇四七四一五〇四四
 文責 森田三郎

会費年2000

創立
1974.12.9

事務局0474・51・7076 中村容子

すぐには、わからないうが

今、クリーン作戦において、その拾いあげているゴミの量と重さは、目に見えないものより、見えないゴミのオがずっと多いのである。

見えているゴミは、拾えばすぐわかるから、「ああ、きれいになったなあ」と言っつ。

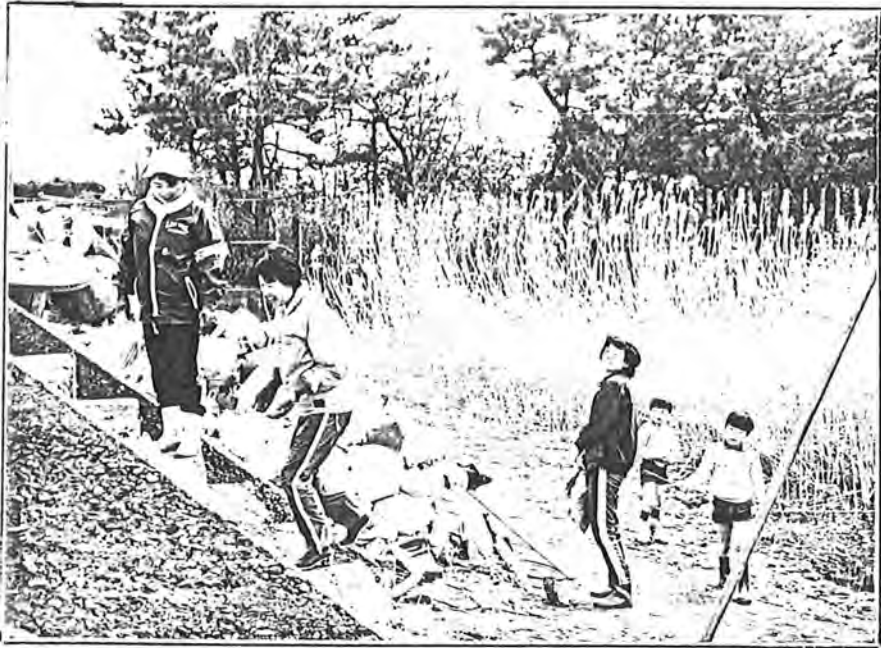
それに対して見えないゴミは、半年やそこいらやってき、中々目にはその結果がわかりないう。しかし、干潟その自体と生きものに与える影響は、目に見えない、するわち沈んできぐっているゴミ拾いの方が、比較にならないうくらい大きく寄りするのである。難点は、作業が大変なこと。つま

り、汚れること、ぬれること、服を替えぬばならないうこと、道具の手入れと始末に手がかかること、道具の種類が多いこと、疲れること、雨などである。ゆっくりとその成果が

そうですね、干潟の広い表面に表われてきた。たとえば、今度、東水路出口の橋の近くの所から、よく干潟を見て下さう。

以前よりき、だいが「生きてきてる」のがわかりますよ。表面が耕されたような感じになってきてるのがわかりますよ。よく見て下さう。見ていけば自然とわかるぞの。

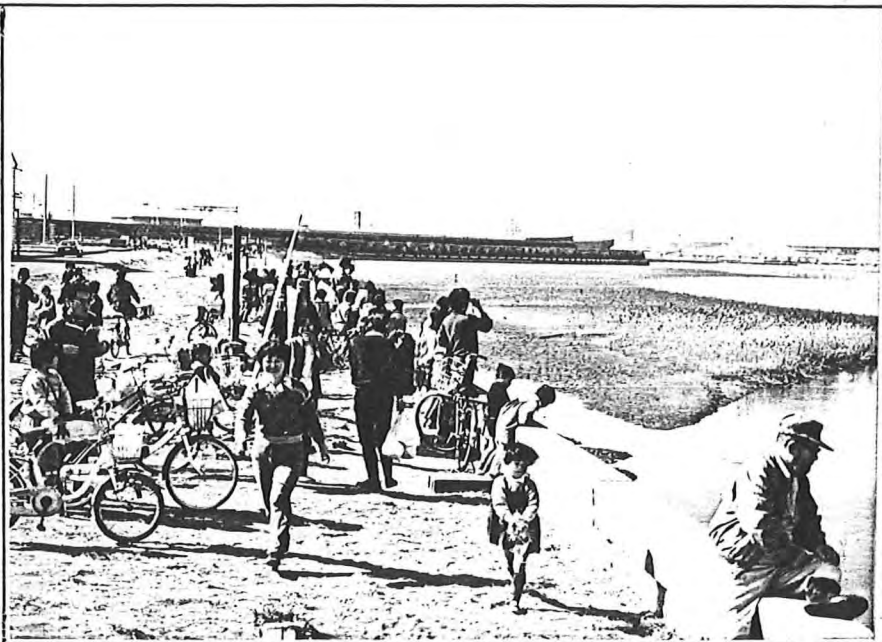
今のまま、今のままにっつ。同じ事のくり返して、クリーン作戦は前進してっつきます。



↑ 才阿回谷津干潟クリーン作戦。3月18日(火)。この日は主婦の為。松枝さん、宮川さんと二人の子供、井本さん、本宮さんが参加してくれました。

↓ 干潟の中をあちこちと、漂うが如くそのトゲを抜いてっつ。で、寒いですぬえーっ。





3月9日(日)。
干潟のそばにある秋津三丁目の子供会・ひまわり。お母さんと子供が70人ぐらひが干潟に来て、ユリカモメにパンのミミを投げた。この子供会は毎年来ています。

こつちの方がいいのかな?。

ここはバラ園前の水辺。昨年からの精力的にクリーン作戦を進めてきた。

コッコとクロは、丘の上の青草を食べに来る。でど、野犬がいるんです。あぶない、あぶない。

五十嵐吉夫さんの野鳥写真がカードになります

ました。楽しみですわ。そして、さしかいたり、季節ごとのシリーズとなって作りぬるかとも知れません。

今流行のテレホンカードに、今度五十嵐さんの干潟の鳥の写真がカードになってお目見えします。先般、NTTから依頼があり

五十嵐さんは、長年干潟や埋め立て地の渡り鳥、地理、環境写真を写しています。全国的にみて、トップレベルにあると自信をこめて頼みました。



3月22日(土)。谷津小4年のお母さんと子供達が62人。去年森田が授業にて話しをしたのがきっかけとなりました。

このあと、生徒8人を潟スキーに乗せ、干潟の中を滑ってきました。

谷津干潟を甦らす

あぁーあ、見つかった...

ふかんど

第363号

事務局0474-517076 中村容子

1986. 4. 12

谷津干潟愛護研究会
〒25 習志野市谷津三二五十一
 電話〇四七四一五〇四四
 文責 森田三郎

会費年2000

創立
1974.12.9

抑えられているその機能

今、クリーン作戦では、見えるゴミや流れるものよりも、見えぬい、沈んでくぐっているようなゴミを除去する量の方がずっと多い。あらゆるゴミによって、ヘドロが抑えられている。そして又、ゴミによってゴカイヤカニ、貝、インゲンチャクの生息とはばまれている。つまり、谷津干潟は、損をされている。ハンマー、カスガイ、ノコギリ、カマなどで、ゴミを除去している。鳥スキーパーの他、一輪車を干潟の中

うららなす

土と草の匂いする

野糞の空にヒバリ鳴く

4月4日(金)。晴れ。

旧遊園内の団地建設中のバラ園のわきで、ウシコをしていたら見つかってしまった。相手は車の中からこっちを見ていた。こっちからは車のナンバーがわかる程だから、殆んど丸出し。

そんなまあ、もう向に合めないうし、動かなくて動けないうし、はずかしいけれど

幼き日、ウシコをうして涙目に、菜の花畑にのぼる月

に転して行って、山程積んで帰って来てはロープで引っぱり上げています。

貝がフヤ石、ゼニルヤビンなど、フカスガイではいくりに出している。

砂とドロが動いてゆく

干潟全域で、ドロが流れていっている。信じられないが、表面のドロが流れ、突然古タイヤがむっくりと立つのを見たことがある。ゴミがうっすらと顔を出し、何にもなかった所に、ゼニルが半ば埋まら、ゆらゆらゆらゆらと波向に見え出す。強風の日、抑えられていたドロで、浅い所の波がいち面にはびりきっている。

と面倒くさいからいっしょのこと、手を振っちゃった。

やしたら、気合の負けにしたに違いない、車をバックさせて行ってしまった。やんくー。しかしまあ、幸いな

ことに、私はほっかむりをしていたので、本人の顔はわかるまじりて。それかすくい。フィールドワークにノグソは欠かせない。埋め立て地で何千回。旧遊園の中だつて、20回や30回じゃない。広々とした気持ちいい野外で、何故か通じによい。野糞もオレ、しかしまあ、干潟を都市化して来たし、オレも今までのようじゃいけないんだ。

削らぬゆくへドロ



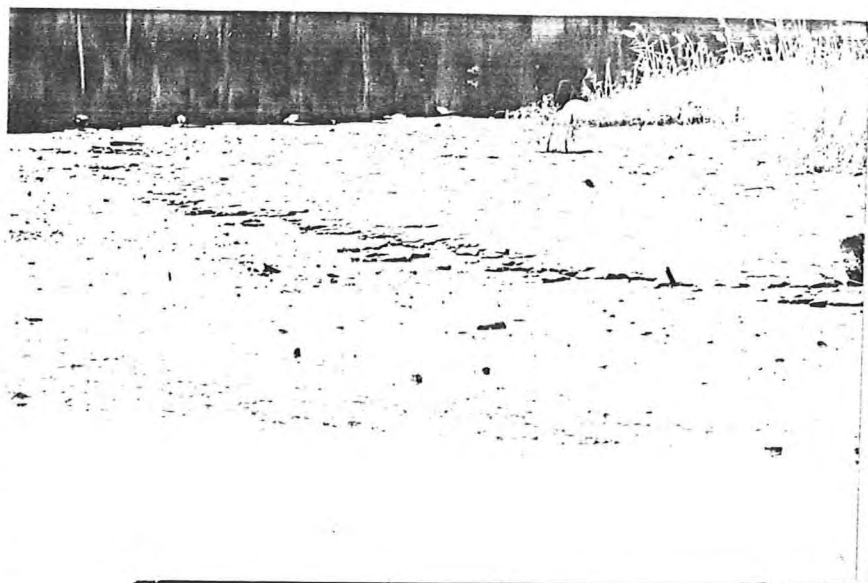
森田が授業に出た、谷津小4年の子供達とよのお父さん。
「ちょっと拾ったんだけど、こんなにいっぱい」と子供達。重くて持てないので、お父さんがお手伝い。

ここから、ますます加速さへてゆきます

下の2枚の写真、段差が境界線のようになつて見える。

下の方の写真の所は、カモがほじくつた所でもある。冬の頃、カモ産は、潮がきた所、とくに水辺の草の所をほじくつて、土の中のカニヤゴカイ、草の根を食べる。

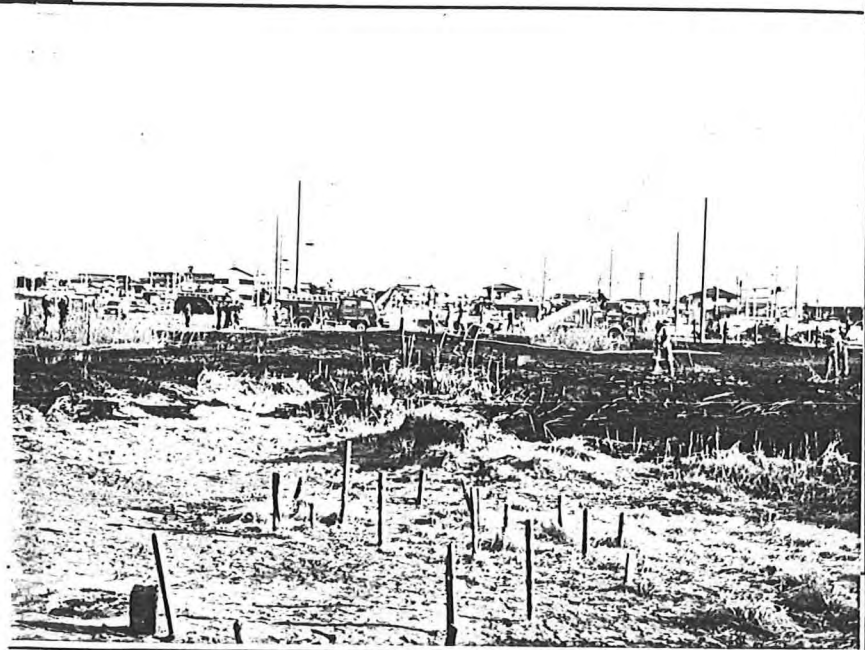
だから、干潟の水辺に何百というクレーターのよつな穴が出来る。よの行為が、ドロが削らぬ一つの要素



となつてゐる。トタンや石やガラス類がムキ出しになつてゐる。

又、カニヤゴカイが掘り出すこれからの季節、よの掘りぬたやわらかいドロが、波でやりぬて流れてゆく。

クレーン作戦「孤」ならず。



今年も火事だ

自然緑地のヨシ野が、今年も又火事を出してしまつた。これで3回目。子供の火遊びが、タバコが原因でしょう。将来の干潟の教訓です。



クレーン作戦は、カニヤゴカイを増やしています。さあ、がんばろう！

波の形のついた、砂地の干潟になった



ゴミはすべて、ロープで引っぱり上げています。時々、貝がピューッと潮を吹き上げるのが見える。

ふかんどい

第364号

1986.4.21

谷津干潟愛護研究会

〒275 習志野市谷津三二二五〇一
電話〇四七四一五〇四四
文責 木村 田三郎

会費年2000

創立
1974.12.9

事務局 0474・517076 中村容子

拾うんじやなくて

掘ってます

ここは、東水路が干潟に出てきた所と「ふかんどい」の間。

去年の秋ぐらひからぼちくととりかかった。ピツチをあげたのは、寒い冬に入ってからだ。力を入れたのは、ミオの中とよの両側、水路の中、水路に沿った杭の所、そして今は波の形がついて、砂質化が進んでいる所である。

いやあー、あったくくくー。流れて来て、一見目につくゴミを除いて、ちまうと見るときれいだっただが、奥は、とってきくくーそんなもんじゃなかった。しかし、前とって知っていたので、

水路沿きのゴミ置き場。これ、たったの2日分。中味は重い。

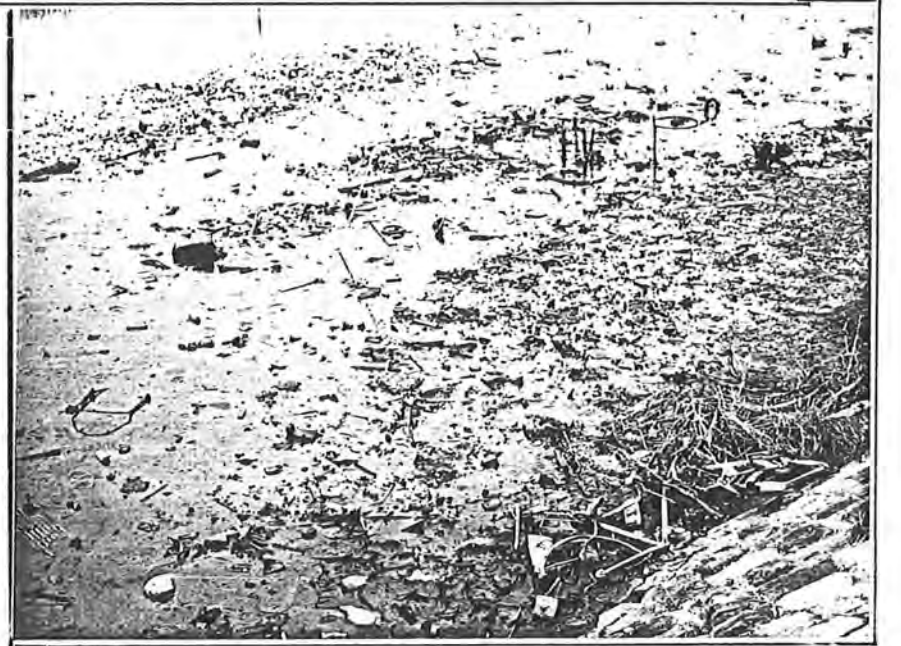


その用意と手順はきちんとしていた。かすがい、ロープ、ナタ、一輪車、カマ、ハンマーが使われた。手袋は3種類、長ぐつは2種類。殆んどが沈んでいて、動かないゴミ。シートやビニールは、どういうわけか、抜がった状態で地面に張りついている。かすがいが最も使われ、死んだ貝ガラを一つずつほいくつたり、石やガラス、鉄片、板切れなどをひっかき出していった。やがて少しずつ、泥が流れ出し、砂質化し、そして砂が動き出した。その作業と干潟の変化は今も続いている。やがて、イソギンチャクやオオノガイ、マテガイ、ヤドカリが増え、今年の春先、とうくノリがあちこちで見られるようになった。

ゴミは、県企業庁が持っていくてくれています。感謝なことです。

100冊目の日記

悲しい、その意志表示



谷津三丁目、大蔵省官舎前

かつて、谷津千鳥はゴミ捨て場
だった。それは今も余り変わってないと思
う。上の写真を見て下さい。千鳥を
とり巻くこの社会環境のきびしさ
と心細さを。これが、現実のホテ
ランゲイジなのである。

やれ憲章だ、提言だ、理念だ、方針
なんだと言ってみてよ、それは顔面。
これじゃあ、不渡り手形だなー。

シートンの影響がきっかけ

森田の日記が100冊目、No.100になった。日記の
題は「開拓」である。19才の時、日立製作所
技能者養成所を卒業し、船橋高校定時制
1年の時につけ始めた。とつ、21年かー。

シートンとは、あの動物記で有名なシートン
である。私は、動物記よりも、彼の自叙伝やア
メリカインディアンに關したもの。あるいはアメリ
カ西部と草原の伝説を記したものに、強く魅
かれていた。とくに自叙伝。内山賢治訳の昭和
24年出版、計24冊もの。

シートンが「日記をつけろ」と書いてあるの
で、「よし、やれじゃオレ」と、やれがきっかけ。
私の日記は大学ノート。持ち廻りは自由だし、
うちゆにきなるし敷き物にきなる。山を越
え学校にも会社の現場にも、どこでも手軽だ。
今はタクシートの客待ちの向に書く。
そんで、だから、外観と中味と、すごいなん
のって。ベリく、グチャク、デコボコ、ベタく。

日記なんて、毎日の「通じ」みたいなとんず。

アオサが育つ

今、千鳥のあちこち
で育っている。私が小さ
い頃は「かわる」と呼ん
でいた。

ひと頃は殆んど見ら
れなかったが、ここ二年
程前から次第に目に
くようになってくる。



谷津干潟クリーン作戦、西へ

「子供の日」の潟スキー

ふかんど

第365号

事務局0474・51・7076 中村容子

1986.4.30

谷津干潟愛護研究会
〒275 習志野市谷津三二二五〇四一
 電話〇四七四一五一一五〇四四
 文責 森田三郎

会費 年2000

創立 1974.12.9

初めて手を入れた

4月20日(日)、才48回谷津干潟クリーン作戦の日、五十嵐・長塚・竹内・森田の4人で行なった。場所は、干潟の西の端、船橋―取手線道路のきりである。今まで誰と、何一ツ手が加えられなかつた所である。

この日、干潟のようすやゴミの量や種類、足場、ゴミ集め場などを調べた。時間は1時間ちよつとである。

谷津干潟が現在の形になって以来、14年間ほったらかしの所。会員のみなさん、クリーン作戦はとうとう、谷津干潟の西の端にま

子供を乗せて滑ります

5月5日の子供の日、希望する子供を潟スキーに乗せてやりたい。

干潟を巡回しながらカニを見て、前に乗った子供にゴミを見つけてもらいます。汚れたとき文句を言わない親子に限る。

……どうも、黙々と作業ばかりしていらぬよう……

秋津小4年3組と共に

育った時代は違つたが

でやっと到達しましたよー！。このこと、この日を憶えて下さい。みなさんの御協力、心から感謝します。

案の定、大量のゴミ、無理もない。一人と、何としてなかつたんだから。

だがこの日、私達は、やれば出来る、と自信を持ったのである。そう、やれば、である。だからやったし、やつてゆくのである。困難ではあるが、不可能ではない。事はその中間にある。

去年の夏、初めて潟スキーが、昔の「ふかんど」にすべり込んだ。森田と共に、幾多の苦難を乗り越えて来たみなさんに、以上お知らせします。

5月10日(土)。午後2時半。

作本先生以下4年3組の生徒とお母さん達に、森田が干潟の話をしします。そしてそれから、いっしょに干潟に行って観察をします。小学校4年の頃、私はふんどしで広いく干潟で走っていた。

バラ園前は温かいよ

干潟でいちばん景色がいいよ

「絵はがき」を作りたい

まあ、見ててごらんなさい。きっときれいになるよ。してみせますよ。

「へえー、谷津干潟にこんな所があったの?」と思うよ。ようですね、5月の下旬から秋口がいい頃になります。木立ち、ヨシ野、水辺の草、そして潮。今から楽しみです。

ここは、バラ園前の突き出たグラウンドの東側。昨年より楽しみみにしていた。今までせっせと、時々の都合をつけて清掃してきました。よくコクチョウが丘によって、草を食べに来る所でもあります。

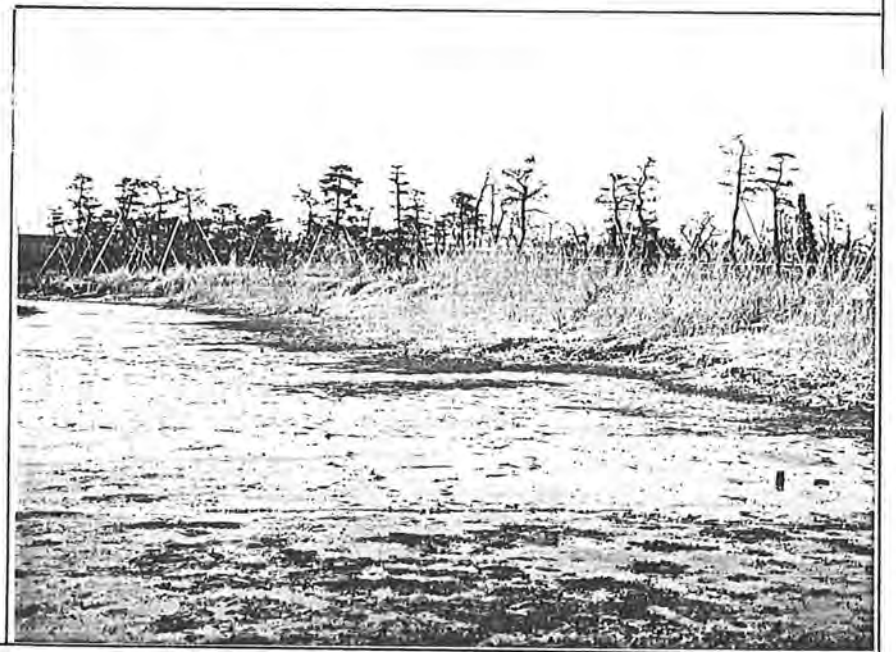
波打ち際のバラ

きっと野バラだろう。このすぐそばまで潮が来て、小さな波がたっぷくと打ち寄せている。二本ある。ヤせて長い野バラは、茶色い枯草の中でひき立っている。子供の頃、海岸の所々にあった。

チドリの声とカラスノエンドウ

ドウ

私は、カラスノエンドウが大好きだ。その小さな豆袋を見ながら、子供の頃、「これ、カラスが食べるのかなあー」と思っていた。干潟のまわりで、最も早く芽を出し、花が咲く。



現在、一般の人は立ち入り禁止。将来、ハマヒルガオを植えるとすれば、ここだ。

干潟を見るから陽を浴びて、ここで弁当を食べるのが楽しみであります。

コアジサシ・シロチドリ・コチドリ 繁殖調査(1)

ふかんど

ネ366号

1986.5.5

谷津干潟愛護研究会
 〒276 習志野市谷津三一二五-11
 電話〇四七四一五〇四四
 文責 森田三郎

会費年2000
 倉立 1974.12.9

事務局0474-517076 中村容子

年々減ってゆく中で

4月24日(木)、晴れ。今年初めて谷津干潟にコアジサシを見た。例年だと、4月の中旬に姿を見せるのだが、今年は寒かったせいか、10日程遅れた。

コアジサシは、夏の使者である。Yの白い翼と体が、干潟の上をキリモシのよこに無い、ツイー、ツイーと鳴きながら、青い空にくっきりとさせるのを見ると、かつつの、過ぎ消え去った、夏の夏の日々を想い出す。武者振りと、背中がゾクゾクする。かげろう、もっとする草いきれ、水や土の匂い、貝がラム、砂漠のよ



夕日のコロニー、3000羽のアジサシの大群が集まっていた。しかし、コアジサシの数は少なく20羽程。ハマシヤが谷津干潟のえから飛んで来ている。

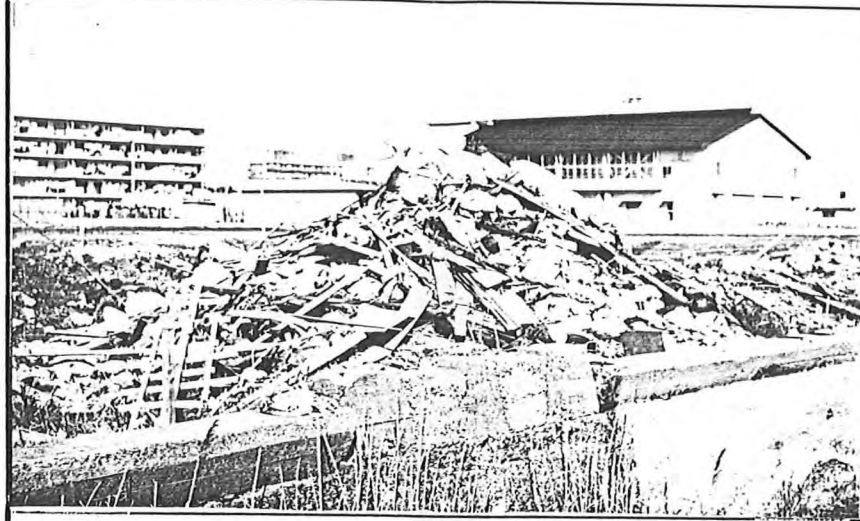
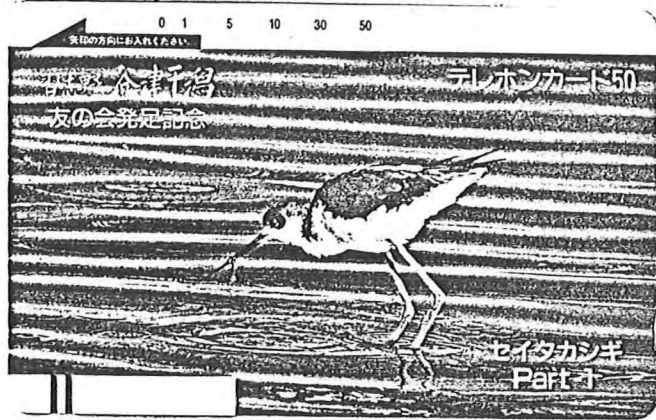
うな熱くてサラサラした砂、夕立ちと虹、入道雲、何も見えなくなってしまうモヤ、ガマやヨシ野の草原、赤茶けたサンドパイプと、うなり声を上げて吐き出された海水と土砂など。調査は今年で12年目。葛西、浦安、京葉港は全滅してしまった。残るは幕張埋め立て地の一角で細々と。5月9日(金)、下見を兼ねて調査を始めた。寒かったせいか、今年は遅れていて、シロチドリの巣一つしか見なかった。調査は、これからシリーズで、コロニーの様子をお知らせしたい。

お世話になりました

ロープさん、どうもありがとう。すり切れて、半ばくさってボロボロのつなぎ目だらけ。今までの、いたり何トンのゴミを引き上げて、はたらいにくれたことかー。

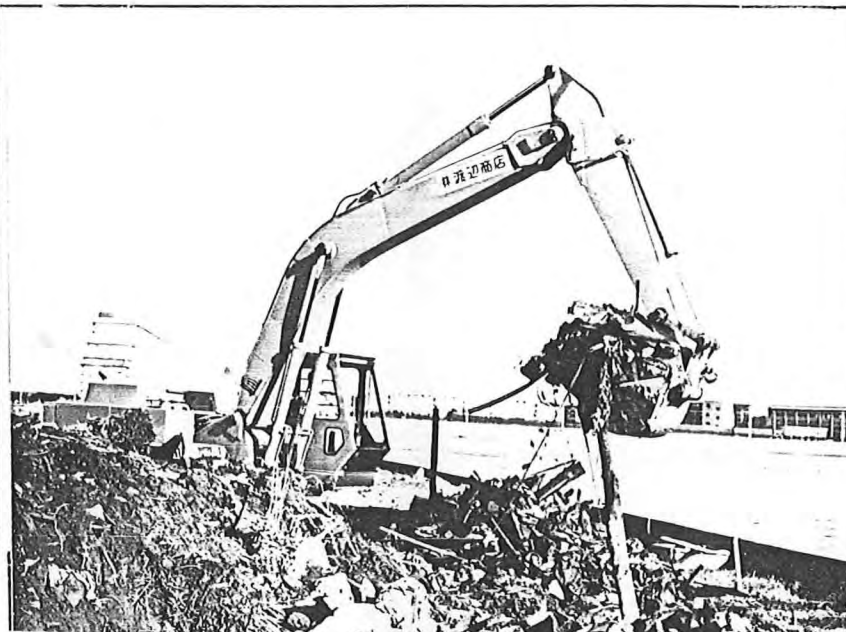


谷津干潟のテレフォンカード { 引き上げたゴミの山 } かわいそうなガ－子



ふかんど鳥で、アヒルが卵を温めている。しかしヒナは一羽も見えない。上空にはカラス、地にはネズミの巣。カラがたくさんあるので、ヒナはみんな食べられてしまうのです。

4月23日(水)。昨年夏以来、バラ園前にて干潟から大量のゴミを引き上げた。夕休をこの日、パワーショベルでどかした。おおよそダンプカー3台分。バリくと音をたてているのを見ながら、雨や風や雪の日、炎天や台風の時の作業を想い出していた。



谷津干潟のテレフォンカードが出来た。

子真提供は、長年干潟や埋め立て地の環境写真をとり続けている、会員でもある五十嵐吉天氏です。

今回はPart 1。つまり、シリーズで出すもの。子真は、ずっと五十嵐

氏が提供。今度のはセイタカシギで、シギの女王とも呼ばれている。とってもきれいな子真が使われています。

NTTが好意的に申し込んできてくれた。「友の会発足記念」と銘うってくれました。これからが楽しみです。

(お求めは、近くのNTTでわかるとのこと)

コクチョウが卵を産みました



ふかんど

オ367号

1986.5.15

谷津干潟愛護研究会
 〒26 習志野市谷津三二五十一
 電話〇四七四一五〇四四
 文責 森田三郎

会費年2000

創立
1974.12.9

事務局0474・517076 中村容子

谷津干潟の人気者、コクチョウが待望の卵が産まれました。4月29日の天皇誕生日。場所は、東水路出口近くのヨシ野「ふかんど鳥」です。習志野市とは、産んだらすぐ連絡して、ふ卵器にすぐ入れるということであった。が、取りに来たのは6日。その間、親は抱いてないし、雨にも濡れてい

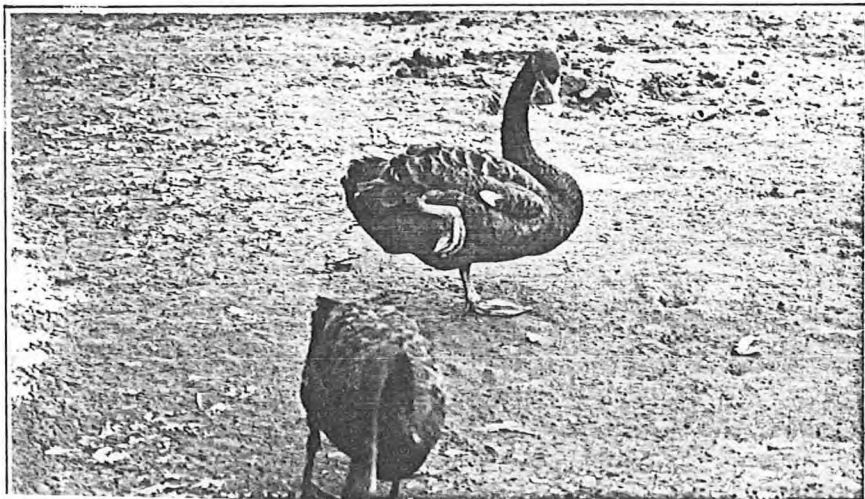
↑ これが卵です。全体的に白っぽいのですが、殆程うっすらとエメラルドグリーンがかっている。長い方が13cmぐらいあります。ここは、風も殆んど当りずとても温かく、むっとするほど。

たー。

→ ヨシの新芽を食べている。しごくように、とぎとるかのように食べている。バラ園前には、ヨモギヤクローバーがあるのに、でも、野犬がいるのです。

↑ 枯れたヨシを積んで作った巣。大きさは直径1m位で高さは20cm位。ふかんど鳥の南側で、護岸からは丸見えの所なのです。

よく見 ↓ て下さい、上のオカメスのクロ。腹とお尻のオが膨ら張っているでしょう。更に卵を産むかど知れません。お楽しみに。



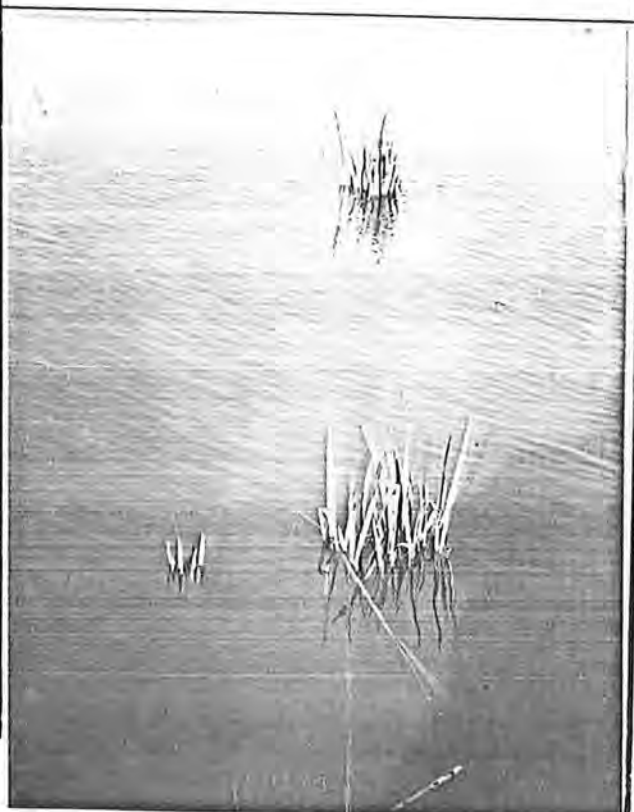
写真展のお知らせ

宮川さんのショウブ きれいごとだけじゃねえ---



上の写真は、投げられた草をコクチョウが食べている。
下の写真は、二人の子供が100個位の石をコクチョウにぶつけ始めたもの。
バードウォッチャー、石やゴミを投げようか、誰も注意しない。

メダカの池に、青々としたショウブが育っている。三株生えている。
更はこのショウブ、去年の夏の終りに、会員の宮川郁子さんが自宅から持ってきて、メダカの学校に植えたもの。
冬の向、池の水が枯れていたもので、気を付けていた。が、ごっこい、生きていたのであった。



N T T 津田沼 サービスセンター

5月22日(木)〜6月3日(火)
国電津田沼駅北口。階段下としてすぐ左。50m左。

尚、水曜日は定休です。

「谷津千鳥の鳥たち」

津田沼駅は、木林田のタクシーステーションのホームグラウンド。ハト交通・No3。

習志野市・谷津バラ園

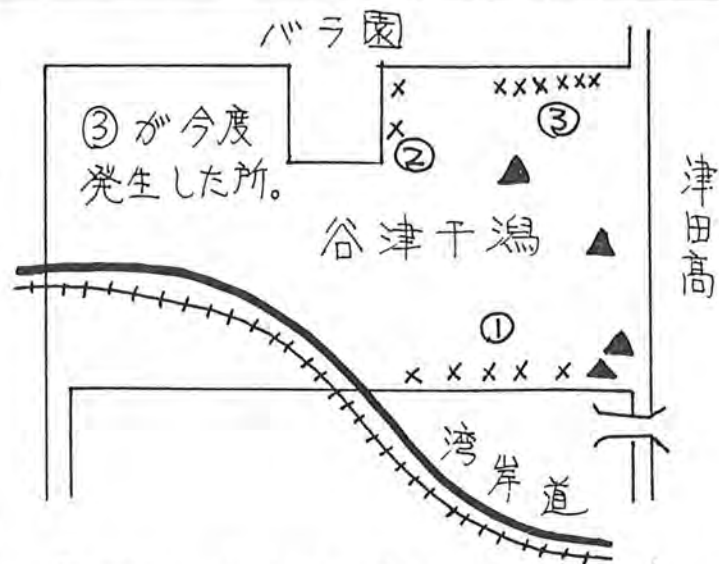
6月1日(日)。

以前、谷津遊園にあったあのバラ園が、6月の1日に一般開放されます。展示場所は、会場受け付けの、紅白の幕の所です。

又この日は、バラ園の市民による写真コンテストの為の撮影会があります。皆さんもどうぞ。

習志野市の姉妹都市タスカルーサ市のあるアラバマ州の名は、インディアンの言葉で「我らここに立つ」の意。

藻が発生し、トビハゼの天国が出現



ゴミだらけだった所に藻やトビハゼが出てくるなんて、大きな慰めです。

① 58年 ② 60年 ③ 6年
 x---藻が発生した所 ▲---今年初めてノリが発生した所

↑ムツゴロウやツクリのトビハゼ。水の上はピョンピョンと三段跳びのように、はね、水の上はエラを使ってはこやく。地面の上もとびはねる。



カニの穴のすぐそばに、今まで埋もれていたビニールが顔を出した。こ

う光景は至る所で見られる。

同時に、ここは又、トビハゼだらけの天国になっていきます。歩いて行くと、次から次へとピョンピョンとびはねて、あちこちに逃げまわるのが見られます。観察と調査をかねて、クリーン作戦を続けていきます。

谷津干潟に、新たに海草の種類の「藻」が発生しました。アマモという名前です。今すぐすく育っています。5月25日(日)によく調べたり、合計15ヶ所で発生しているのが確認された。

場所は、谷津南小学校前の干潟から、マープルスカイハイツにかけての護岸直下。

ふがんど

※368号

1986.6.1

谷津干潟愛護研究会
 〒276 習志野市谷津三二二五-11
 電話0四七四-51-5044
 文責 森田 三郎

会費年2000

創立
1974.12.9

事務局 0474-51-7076 中村容子

“干潟に来た人達”を写し続ける

(7) 昭和61年3月5日

谷津小PTA新聞(182号)

わかる授業 社会科公開研究会 ……地域の人も先生です

社会科学習において、地域の方々に体験に基づいたお話をしていただきました。ご協力ありがとうございました。

昨年の九月〜十二月頃まで六年生は社会科の授業(公開研究会でも発表)で、「戦争について」勉強しました。公開研究会には、金子静子さんに来ていただき、戦争中どんな気持ちで暮していたかを一人の国民生活を通してお話ししていただきました。金子さんは、御家族を二人も戦争で亡くされました。当時の子供たちの生活、勉強、働くことなど、金子さんのいろいろなお話しに子供たちは、声もないほど大きな衝撃を受けました。このように、体験者のお話によって、家族の悲しみ、死を覚悟することのつらさ、戦争の悲惨さなどを実感として強く印象づけられたことは、子供たちにとって何よりの「自らわかる授業」となったようです。



四年生は、「東京湾の開発」の勉強をしました。今、習志野市の面積の約三分の一は埋め立て地です。経済の発展に伴い工場や団地をつくるために埋め立てられていきました。かつては国道十四号線沿いに広がっていた海。海水浴や潮干狩、のりの養殖が盛んに行なわれていた。海で生計をたっていたこの地の人々が、海の埋め立てに對してどのような気持ちでいたかを、「谷津の海でのりづくりをしていた人々の話」として資料にまとめました。

いきさつやその自然について、谷津干潟を守るために長い間努力してこられた「谷津干潟愛護研究会」代表の森田三郎さんに話を聞きました。子供たちからは、「なぜ干潟を守らなければならぬか。」「今までに一番つらかったのは何か。」「自分たちには何ができるか。」「質問が続出しました。干潟を見学して観察したり、保護に努力している人の話を聞くことにより、郷土をよりよくしてゆくために自分たちが何ができるか、それぞれが考え始めました。

- ご協力いただいた方々
(五十音順)
- 加藤 善蔵氏
 - 金子 静子氏
 - 金子 昇氏
 - 三代川 栄氏
 - 三代川 保氏
 - 三代川 豊吉氏
 - 村山 喜作氏
 - 森田 三郎氏
 - 矢野 繁作氏



干潟は野鳥の休息地

谷津干潟は、旧谷津遊園の南側、埋め立て地に囲まれた約40haの水面である。干潟が渡り鳥で一番賑わうのはゴールデンウィークのころの三週間位である。北へ帰る前の冬鳥、四国や九州へ渡って



写真提供 森田三郎氏

いて、カナダやシベリアに帰る途中立寄った鳥。夏鳥の先頭グループと、違った季節の鳥を見ることが出来る。やせ細って渡ってきた鳥たちは、干潟に数カ月とどまり、休息すると丸々と太ってまた飛んでゆく。潮の満ち干のある砂浜には、カニ、イソギンチャク、アサリ、潮ふきなど見られ、四、五月頃には1cmくらいのカニで砂浜がいっぱいになる。水がきれいになったのか、この冬にはのりが発生した。埋め立てが盛んに行なわれたころ、干潟だけは埋め立てられずに残ったものの、すっかり汚され、昔の面影はありませんでした。

干潟が可愛想と、森田さんは五十年頃からクリーン作戦を始めました。干潟のそうじは夏も冬も続く泥だらけの仕事だが、着替えの小屋もなければ、泥を流す水さえない。それでも中断されることなく続けられた。人の手によって汚された自然がそれを愛する人々の手によって生き返りつつあるのです。

マン・ウオッチング ー新しい角度からー

大滝俊隆氏。職業はデザイナーである。

今年の3月頃、初めて干潟に来て、さっそくクリーン作戦に参加してくれた。会員にもなってくれた。

写真の経歴は長く、今までにどがい分りろんな所を写して来ている。

干潟、特に、ここに来る人物の様々な姿や営みに興味をもち、写し続けている。そして、写した人に写真をおげている。

私も何枚かどらったり、写真を見たり、写真展を楽しみにしています。

せて頂いたが、改めて、干潟と市民の触れ合いという、ナマの姿を見て考えさせられた。

笛やトランペットを吹く人、シヤムネコを抱いた少女、ウサギと遊ぶ子供、小唄の練習、鴻スキーで泥だらけの子供達など。今までにない、新しい角度からの視点である。



ふがんど

オ369号

1986.6.15

谷津干潟愛護研究会
〒276 習志野市谷津三二五十一
電話〇四七四一五〇四四
文責 森田 三郎

会費 年2000

創立
1974.12.9

事務局 0474-517076 中村容子

コアジサシの声をきなく

5月25日(日)の夕方。谷津干潟友の会の作業を終え、五十嵐吉夫氏と共に幕張の人工海浜(習志野寄り)へ行った。

去年、ここにコロニーが形成されたので、今年とどうかと思ひ、調査に行ったのである。

ハマヒルガオはまだつばみだった。ゴミと、去年と同様ものすごい量だ。

しかし、ミロチドリ・コチドリ・コアジサシの姿と声、それは奥に淋しいものだった。

一時間程二人で歩いたが、ミロチドリの巣(卵3コ)を一つ見つけただけだった。去年の今頃は、コアジサシの巣が20巣程あったのに。少時は、コアジサシの声は全くなかった。後から4羽飛んで来たが、それは花見川方面からで、ここで営巣しているコアジサシではなかった。

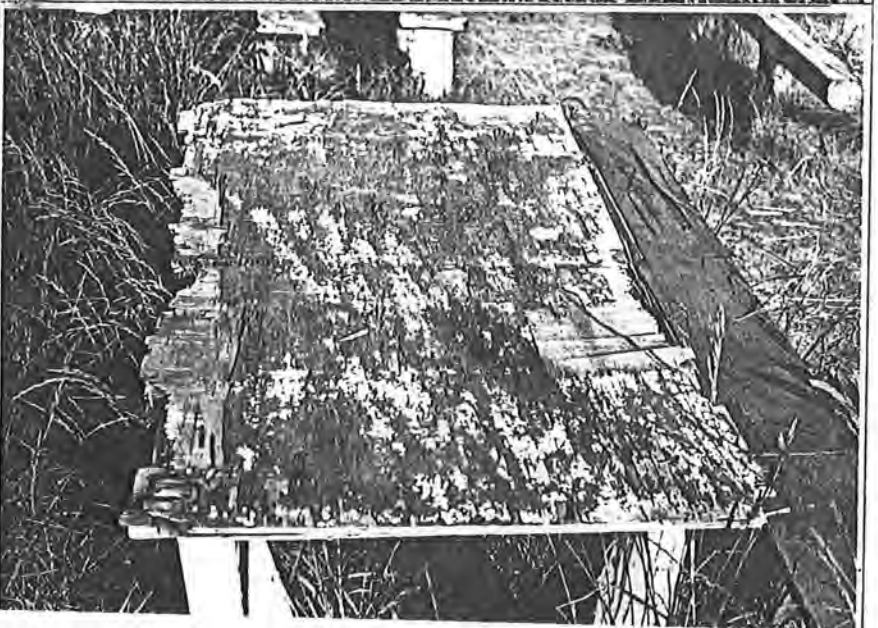
かつてはゴミと言われず

ほんとに、ほんとにありがたう……。君の御陰で、3haの草地と、中7m長さ300mの緑地が確保されたんだから。

流木だった君が産まれたのは、今から8年前の秋から翌年の5月まで。泥だらけで水を含んで重かった。オレは脚に金具が入って、びっこをひいていたっけ。

んまあー、ホロクになっちゃって……。君をめぐって、企業界と真向から対立

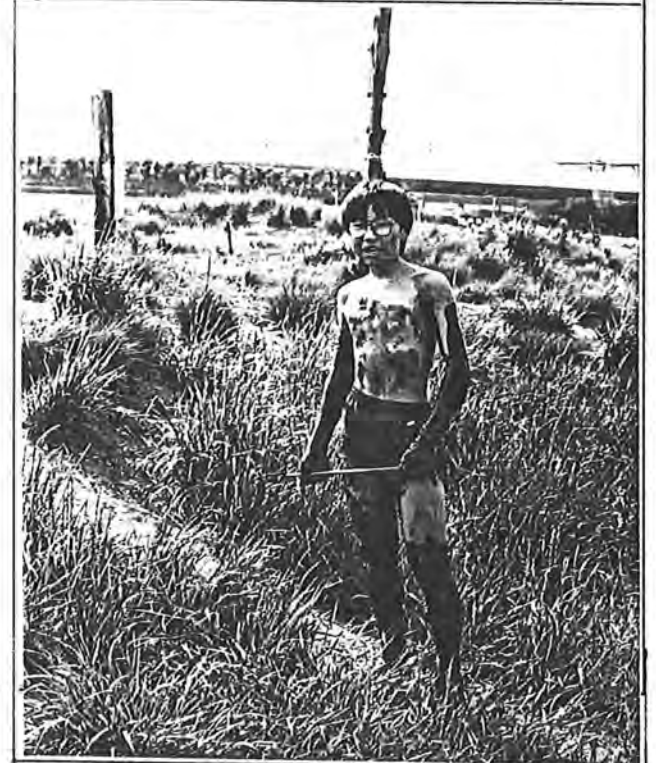
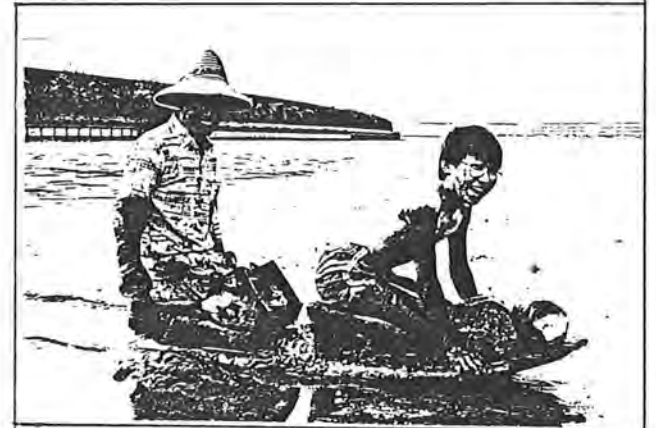
した時、支えてくれたのは、自然保護や鳥のことは何も知らず、地元の主婦だけだったんだぜ。君は、干潟とここに来る人の為、ずい分働いた。夏草に埋もれている姿、けっこう人気があるんだよ。



「へえー、そう、
やってみるかぬ」

めずらしい子が来た。私といっしょに、是非干潟の作業やその他のいろんなこと、やってみたいという中学生が現われた。

干潟のすぐ近く、秋津四丁目に住んでいる江野沢光幹君だ。「おじさん鹿のことは、新聞で知ってたよ。」



そんで、いつか自分をやってみたいと思つてたしと。確かバードウィークの頃、初日早々ペンシ一枚でまっ黒になって流木やゴミを拾っていた。観察だけじゃつまんないんだってさー。

上げ潮に乗ってくる

魚の大群

潮が満ちてくる時、その潮の流れといっしょに、無数の魚が泳いで入ってきます。

イナ・ホラ・セイゴ・フツコ・サッパ

などです。又、水の底をほうようにして、カレイやハゼと、見た目にはわかりませんがぎっしり入っているのです。

下の写真は、きれいにした砂地の浅瀬で泳ぎまわる魚の大群です。



潮溜りはカレイの

子供がうようよ

潮が引いた後の潮溜りには、カレイやハゼの子供がたくさん泳いでいます。とくにカレイが目につく。そこは、昨年の秋より、ビニール

や石、レンガ、シート、板、カン、ビンなどのゴミを徹底的に清掃してきた所です。今年急に増えてきました。近くの子供達が素手で、30し40匹ととっていました。

コロニーからの便り (その3)

ふかんど

第370号

1986.8.2

谷津干潟愛護研究会
 〒26 習志野市谷津三二二五十一
 電話〇四七四一五〇四四
 文責 森田三郎

会費年 2000
 創立 1974.12.9

事務局 0474・517076 中村容子



ニアジサシとその卵。電車の音、学生の話し声、走るバイクの音、会社に行き交う人。そんな中でヒナをかえす。



つかの間の所に50巣と

「駅前のコロニー」。そうですね、異様なことに、駅前にコロニーが作られたのです。

ここは習志野市の茜浜。京葉線の「新習志野駅」の目の前。距離

卵を抱いているコチドリとその卵。10メートルと離れない所にニアジサシとミロチドリの巣とある。



にして100メートルとない所。

TEC(東洋エン지니어リング)のビル建設予定地。

今までヨシが茂っていたが、ビル建設の為にブルドーザーで地ならしをした。もしたら、貝ガラと砂がむき出しに

なり、今年一時期、埋め立て直後のよう感じの地面になりました。

営巣するかなーと、期待をこめていた。でも、やりました、ニアジサシ産は帰ってきた。サラリーマンや学生、バスや電車やバイクの中でー。

子真の下は、卵を抱くニアジサシ。後方は国鉄京葉線の電車が走っている。アナウンスの声を聞ける。異様な光景です。

3000巣近くも営巣のコロニーが消滅してから10年ぶりに再び・・・。

手の皮がふやけた

しばらくゴミ拾いをやって、手袋を逆さにすると、ポタ／＼とお湯だかなんだか生あったかり水が出てくる。つまり、汗がたまっていたのだ。おかげで手はきれいになる。きれいになるといつても、なにを清潔というのではない。ほんとうは、フケ

ツなんだと思う。その証拠に、手袋にハナをつける、イヤアー、臭いのナ、ソッテエーッ／＼。

つまり、何ヶ月分、何十回分もの汗の乾いたもの、凝縮されたエキス如きモノが、再びクリン作戦の汗にて解け、その匂いを放つからだ。でもまあ、その手を泥だらけの服でふきにぎり飯を喰うんだからぬい。

まずは試験的のつもりで

津田沼高校がわのくずかごを、8月の10日より、一つずつ撤去し始めました。それまでは5ヶ所あった。くずかごを置いたのは、昭和51年の夏。県企業庁と話し合いの上、企業庁から頂いたもの。それまではまあ、水路ぎわという護岸沿いというゴミゴミゴミ。

干潟の中をゴミっぱい。風などで干潟へ落ちる量が多かったが、何より、干潟に投げすてられていたのです。

それまで片っ端から拾っていた。やがて、何とかならんかと企業庁と相談した。当時、とにかく、投げ捨てないでくずかごに入れまくればいい、という心境と現実。一応その目的は達したが、今度は、わざわざゴミを持ってくる人が増えたのです。

気がついた、見たままのことと言いましよう。

とくに、今の季節の朝と夕方干潟には、かなりの人が散歩などに出ています。散歩などと

というのは、何も散歩する風でなく、ただ干潟のそばに立って、何気なく見つめている人も多くいるということなのです。

双眼鏡や望遠鏡などは勿論持っていません。だから、観察しようとか調査しようという目的意識からではないのです。意識でき、ただ、何気なくそうしていること。そう、それかやすらぎ。

谷津干潟環境美化委員

中村 容子さん



(習志野市秋津)

干潟市に住んでいるから子供を連れて谷津干潟に遊びに来ていました。6年前

やすらぎ

干潟に近い団地に移り住んでから、干潟の浄化がかわり合うようになったのです。長

年、干潟の清掃に取り組んでいる人たちと一緒に、毎月、クリーン作戦を展開していましたが、徐々に成果が上がらず、今では根絶されて来ましたが、東京湾奥に残された数少ない干潟なので、やすらぎを与えたい場所としていつも見守りたい

1986年6月13日 読売新聞

なにしろ、手がニユルニユルするよ。

やすらぎって、きっと、控え目で、はずかしがり屋なんですよ。

ふかんど

オ371号

1986.8.19

事務局 0474・517076 中村容子

谷津干潟愛護研究会
 〒276 習志野市谷津三二二五-11
 電話 0474-515044
 文責 森田 三郎

会費 年2000

創立 1974.12.9



谷津干潟で初めてウナギを見ました。
 7月8日。津田沼高校がわの潮だまりの中。ドシコ、つまりダボハゼを頭からのみ込んでいた。体長30cmぐらいの、まだ小さなものです。今まで誰も見っていない。
 谷津干潟が「ふかんど」



と呼ばれていた頃、「竹ぼうぼ」でたくさんとれていた。

本格的に突入しました

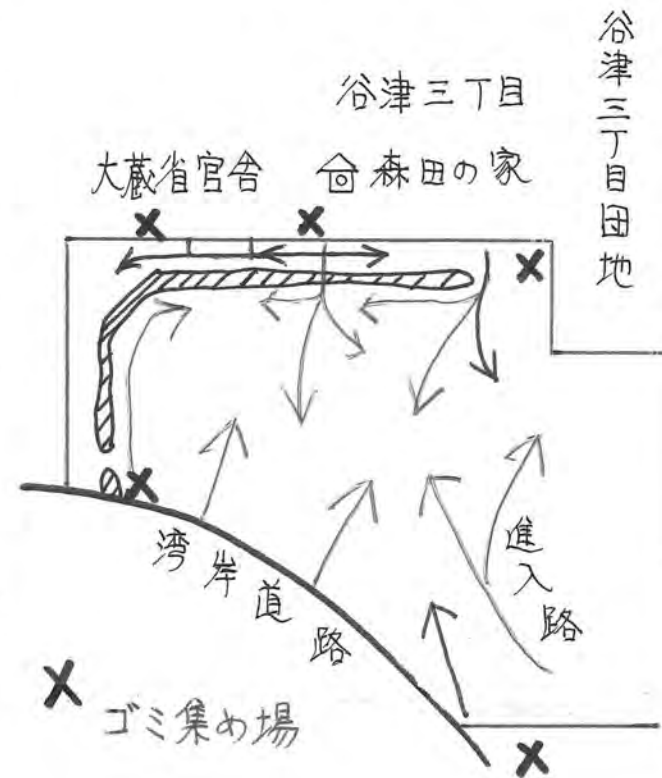
「勝利宣言をしようぜ」と

は、長塚さんの言葉である。

6月のある日、長塚さんは旧遊園側の谷津南小の前から、干潟の中を横切って歩いて来た時、あずま屋・いそしぎにいる私達に言った。

「こっちの東側をさ、ゴミ拾おうと思って見てきたんだけど、まるで舐めたようにきれいなんだよな。流れてくるゴミはさ、時々拾えばいいじゃねえか、そんで十分だよ。どうだい、ええ、この辺で、こっちの東側に突入してはさあ、勝利宣言をしようじゃねえか。今度は、あっち（西側）を

略 図



攻めようじゃねえか」と言いながら指を差した。これが、きっかけである。実は、西部戦線の、競馬場側で最初に本格的にゴミを拾い出したのは長塚さんなのである。私達と、いつかはよろうと思っただけだが、中々そのふんざりがつかなかったのである。かくて西部戦線突入せり。長いぜ。

今、大蔵省官舎前を中心に、ゴミの山が日毎に大きく高くなっている。

習志野市谷津「ごみ拾いに」と漁師／絵画教室の子あす写生会

善意のボート
干潟に波紋



干潟に浮かんだボートと森田さん。習志野市谷津の干潟で

習志野市の谷津干潟で、最近、えを両親や、いろんな人に話し、一隻の木製のボートが浮かんでいました。いつの間にか、だれも知らないうちに、木 市民団体、県をめぐり、木更津近郊の漁師が、「ごみ拾い、付近の漁師にも伝わったらしをすのの便利に聞いたから」とい。ある日突然ボートが運ばれ、ただけ言いついて置いた。ボートは木製で、表面の青い塗料ははげかかっていたが、十分水の上に浮いた。森田さんは「いろんなところからごみを拾っている中継基地に出来る」と喜んでる。今は、このボート「善意のボート」のきっかけを有効に生かすため、「ボートは、船橋市立高郷小六年生の池まごみ運ぶためのサーフボードがあればありがたいのです。谷津干潟と、そこで十二年が、不用になったものがあれば、間清掃を続けてきた森田さんのことを取りあげた何冊の本を、千潟にボートが浮かんだこと、読んでるうちに、「ボートが、一は、同市内のいろんな人にあったら、ごみ拾いを拾える、伝わり、同公民館の絵画教室で、冬を寒くないだろうな」とも、日曜日に行くと、思った。昔は、その思いが、いつかにならう。

ほんとうに有難う。心強いプレゼントです。長い長い道のりの一里塚でしょう。でも残念なのは、置き場が殆んどなく、クリーン作戦に十分使い切れなりのことです。

ああ、早く道具置き場が欲しいなあー。

卒論のテーマに

がんばれ、本田カヨ子さん

長谷川康之君。

千葉大学文学部行動科学科4年。谷津干潟保護運動の流れと、市民や行政の動き、そして、愛護研究会や友の会、森田の育ち方がテーマのこと。

とくに、森田の行動力、情熱やバイタリテイの根源をさぐってみたいとい

「ヒューマンレンドキュメンタリ大賞」に挑戦しています。

森田の生い立ちや活動を材料にして、応募してみよう。今、せつと書いています。

この大賞は、読売新聞社とカネボウがスポンサーとなっている。資格は女性だけで、賞金は一千万円。締切りは9月30日だそう。

本田さんは、児童文学を書いています。しっかりね、本田さん、応援してるよ。

う。ー、ーそんなこと、当人にささげ

り分らなりのに、ー、オッソロミイノ。で、現代の若者にどのように映るか、ちよと興味とある。がんばれ長谷川君、喜んで協力するよ。君と、卒論と就職で大変だろうが。

明星大学の社会学科、弼川直哉君に続いて二度目。まあ、お好きによう。

本田さんが、その一千万を手に入るのを助けるべく、森田は全面的に力を入れて協力しています。

幼小の頃の話しや、今までの経歴を説明してきました。会報「ふかんど」のNo.369号までよく調べ、現地案内も積極的。おふくろときを会いました。つい先頃まで秋津に住んでいました。だが、今は埼玉の桶川市に引越

完成したら、私産で小冊にします。

バイク好きで、中々のハンサムです。

山口さん、早くなおしてね

「あたしはね、汗をびっしょりかくのが大好きなんだ、健康法なんだ」ですって。

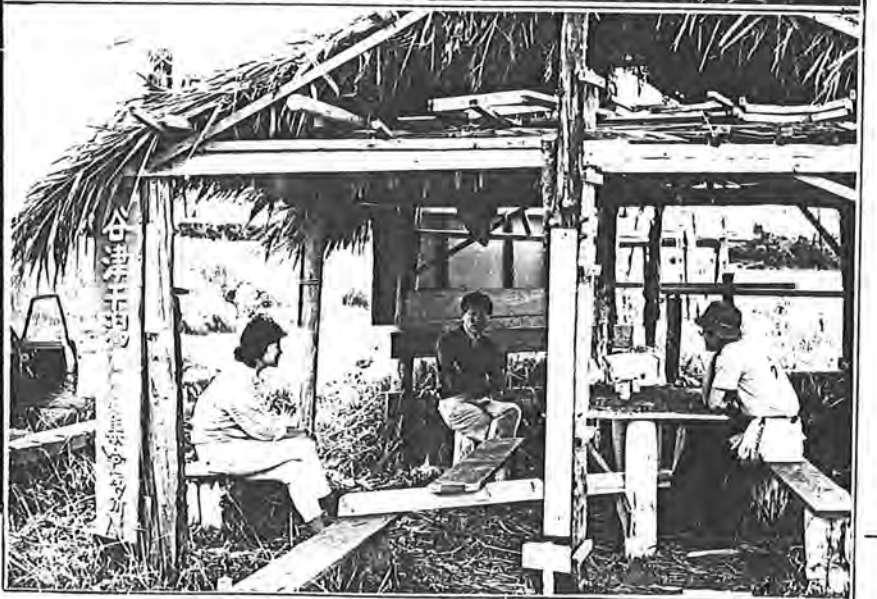
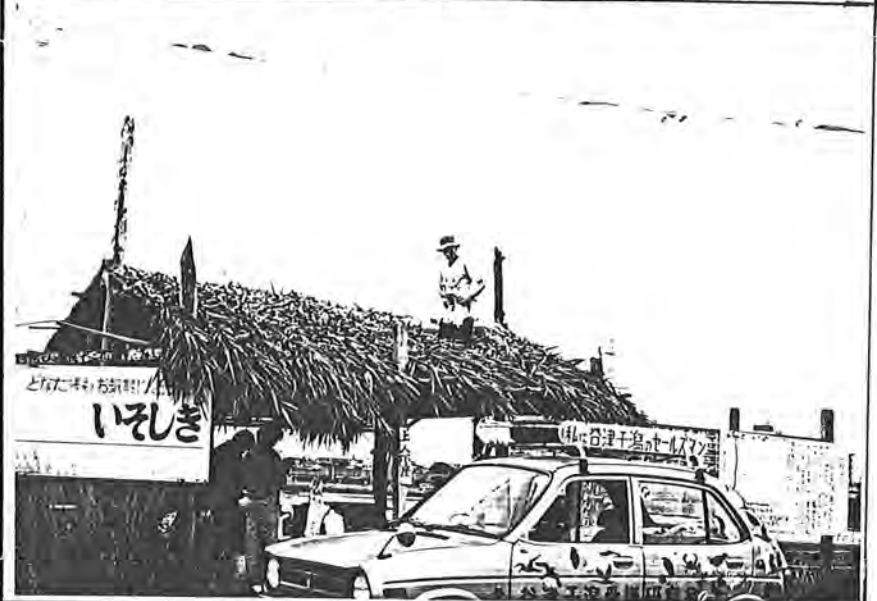
「山口さんの縄張り見た
たびに」

「ー、ああ、まだ来てないんだ
なあ、どうしたんだらうか、何かあ
ったんだらうかー」。

通称、「山口さんの縄張り」という
所がある。それだけで、私達はみんな、

「ああ、アソコかあ」とわかるのである。
通るたびに、私はいつと見る。それと、
生々しい足跡があつて、泥のゴミが集まっ
てると、「山口さん、元気でいるんだなあ」
と思う。でも、このところソレがなかった。
「どうしたのかなあ、体でも悪いのかなあ」
と思つて、この前電話をした。もしたら、
若い頃ケガをした腰が痛み、病院に通っ
ているとのこと。みんな、心配しています。

干潟は山口さんの散歩コース



憩いの涼しさを

ふかんど

才372号

1986.8.24

谷津干潟愛護研究会
〒750 習志野市谷津三二二五-11
電話〇四七四一五〇四四
文責・森田三郎

会費年2000

創立
1974.12.9

事務局0474・51・7076 中村容子

あずま屋「いそぎ」
毎年恒例の、あずま屋いそぎの屋根ふきが7月20に行なわれ
ました。今年で9年目。
長塚、大滝、宮川、中村(主婦)、
宮川(主婦)、子供5人、森田で作

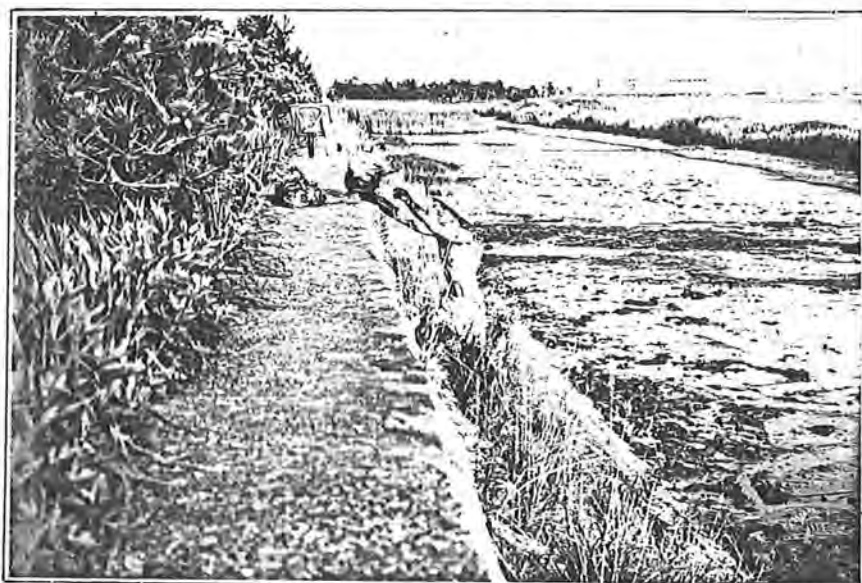
りました。ヨシと流木と竹で作った、
自然味と涼味が満足のいそぎ。
毎年、干潟に来るいろんな人々、
夏の直射日光の暑さから守ってら
るんですよ。つや明けの頃、ヨシの
長さや時期が最もいいのです。今
ではすっかり干潟の名物になりました。

谷津干潟クリーン作戦・西部戦線(2)



護岸の近くは、余りにもゴミがひどく、潟スキーがたまらない。太もも、腰まで泥につかって作業。

斜めの石垣の護岸を登り、ヨォーイショッとゴミの入った袋を投げる。この時がいちばん力が入る。



家に近いのが強み

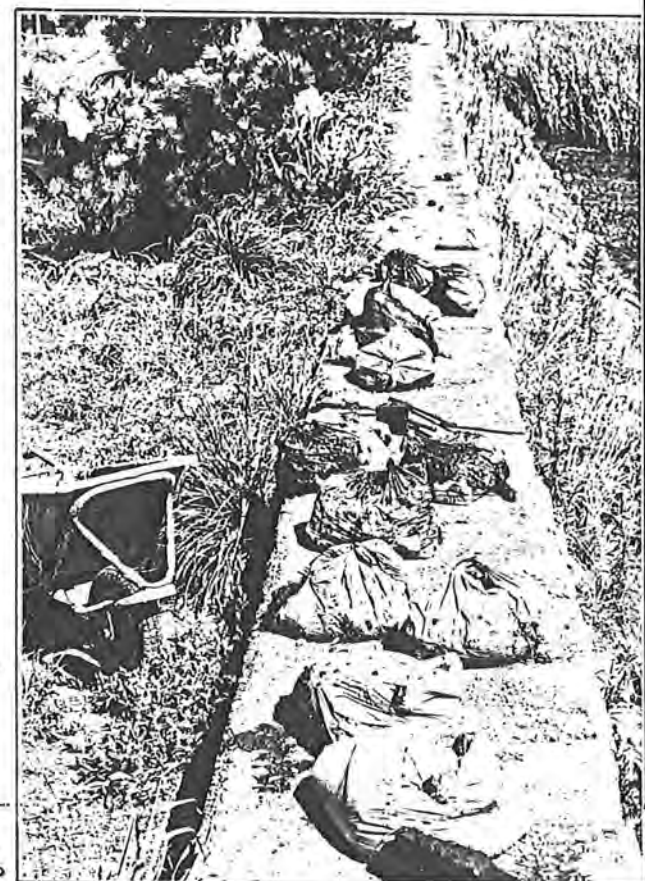
この写真の所は、私の家から100メートルとない。だから、クマチヤクワ、ゴミ袋や一輪車を持って、地下たがや長ぐつですたく歩いていく。何しろ、家の庭はそのまますぐ干潟で、20メートルしか離れてない。そして、玄関や庭には干潟からはり上



護岸から少し離れば、どうにか潟スキーが使える。それでも時々、カッパ、ゴリゴリ、ギュウとゴミが当る。

こうして、一つ一つ上に引きあげていく。実は、ここまでが大変。この一つ一つのくり返し、五千か七千か一万かな。つて来てすみついたのでさう、何匹ものカニが、ガマガエルといっしょの所にすんでいる。すっ裸になつて、オチンチンまでごしく洗う木戸のそばには、フナムシまでいるのである。最近、初めて見た。部屋の中に山と積んである本の間に、私が裸でおせんの上でコーヒーを飲んでいると、カニが走って隠れるのをいー。

カニがタタミの上を音をたてて逃る。幸せ---



手づくり池の夏の水辺 = 草・土・水

ふかんど

ネ373号

1986.9.1

谷津干潟愛護研究会
〒276 習志野市谷津三ー二五ー十一
電話〇四七四ー五一一五〇四四
文責・森田三郎

会費年2000

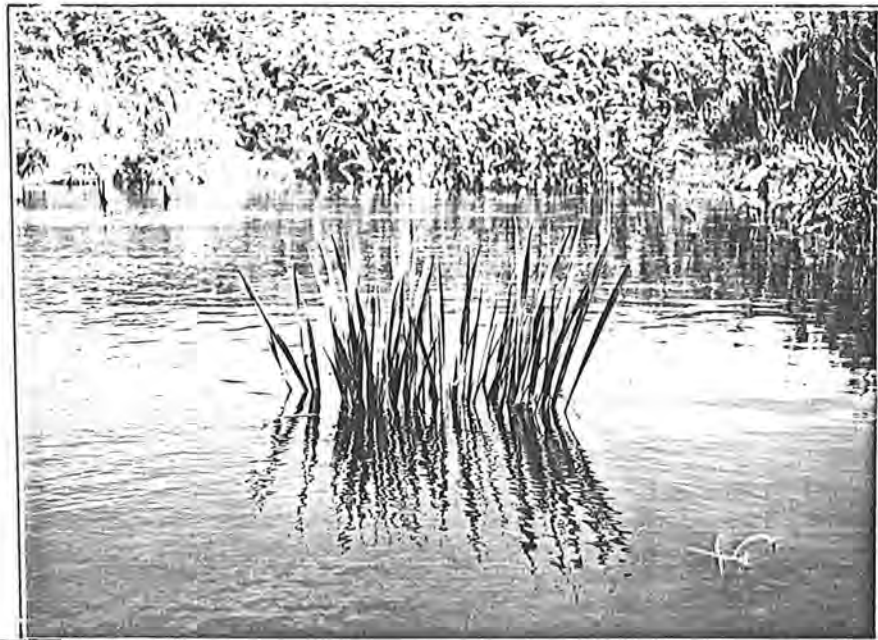
創立
1974.12.9

事務局0474・51・7076 中村容子



↑ 小さな静かたたずまのメダカ
の学校。少年の頃の思い出に
ふけりました。

宮川郁子さんが植えたショウブ。
今は更に大きく、こんもりと。



メダカの池を作ってから、
とう5年になった。
スコップと一輪車で作り
ました。埋め立て地とい
う所で、そして雨水だけで、
はたして水が溜るかしらと、
半信半疑でせっせくと
作りました。

ショウブも、ホテイアオイ
も、キンヤゴサも立派に
生育出来ることが実証され
ました。全てが乾ききった埋
め立て地の中のメダカの池です。

↑ 浅い水辺の奥まった所。
その西側は小高くて、夏草
がかぶさるようになってる。

天声人語

もし、故郷の干潟がヘドロやゴミに埋まって死滅しつつあるのを久しぶりに見た場合、自分だったらまず何をするかと考える。泥にまみれながらゴミを捨てるのか。たぶん嘆きつつもあきらめてしまつてはいないか

▼千葉の習志野市に住む森田三郎さんは、あきらめなかった。東京湾の巨大な埋め立て地の中に、四角い池のような形で取り残された干潟があった。日比谷公園の二倍ほどの面積の干潟は、悪臭を放ち、生き物の姿はなかった。幼いころ共に暮らした干潟のうめき声を、森田さんはきいた

▼森田流の運動は単純明快だった。M.M.M.M.Mの汚泥に身を投じ、黙々とゴミを捨てることだ。空きかんや古自転車を捨てる。腐敗したナマコ山の山に挑む。古車や冷蔵庫や建築用の廃材をロープにくくりつけて岸にあげる。捨てるも捨てるもゴミは捨てられたが、拾いまくれば道が開ける、と自分はいきかせた▼最初は気恥すかしかった、恥すかしいと思う自分がくやしかった、と森田さんはいう。拾い集めたゴミの処理は役所はさっぱりを向いた。たまりかねて、ゴミを役所の玄関におちまけて「展示」したこともあった

▼十数年たった。森田さんの職業は新聞配達からタクシ運転手に変わったが、干潟を救う仕事は続き、仲間があえていった。干潟は今、よみがえりつつある。ハマシキやウミネコが舞い、トビハゼやボラが泳ぎ、カニが群れ、アマモに魚が産卵するようになった。埋め立てられる運命にあった腐臭の地が鳥獣保護区に生まれ変わったとしている。森田さんはいう。「自然保護というのは、結局は自分を救く、自分が何をするかを問いつめる、そういうことじゃないですか」▼最近、事件があった。みんで干潟わきに建てたプレハブの作業小屋が撤去せられた。緑地整備の場所だからだめだと思はいう。役所もかたくなにならず、息の長い浄化作戦のための拠点を優先して造り、市民に提供したのだという。

ふかんど

号374

1986.9.10

谷津干潟愛護研究会
 干潟 習志野市谷津三二二五〇四一
 電話〇四七四一五〇四四
 文責 森田三郎

会費年2000

創立 1974.12.9

事務局の474・517076 中村容子

今年 は クリーン作戦と

去年に引き続き今年と、市立谷津小学校4年生の授業に出て話しをすることになりました。

「特別公開授業」でコミュニティゲストとして依頼されました。希望者は参加できるということです。

去年は教室の中で話しをしました。今年には2クラスずつ2回、全クラスの子供が相手です。又、教室では干潟の現状の「臨場感」がわかりにくいので、干潟の現地にて話しをして欲しいというのが学校側の計画です。そして、この話は、私に、実際にクリーン作戦の実際の姿を、どんなゴミがあり、そしてそれをどうやって拾

っているかを見せたいというのでした。

おまけに、子供たちにゴミを拾わせるという。去年より、一歩と二歩と谷津干潟に踏み込んだ授業の内容にしたというのが先生たちの考え。私産とそれを聞いてうれしくなりました。当方と、スペシャルサービスとして、潟スキーに7、8人ぐらいのせて滑ってやりたいと思います。

谷津小では2年前より、授業のテーマとして「東京湾の開発」に取りくんできていること。郷土の見直しということに重点を置いていくという。

私の他に、以前漁業でノリやアサリをとっていた方々も参加されます。

ゴミ袋の山を築く日々

この写真の所は、谷津3丁目前の大蔵省官舎の所の草地。

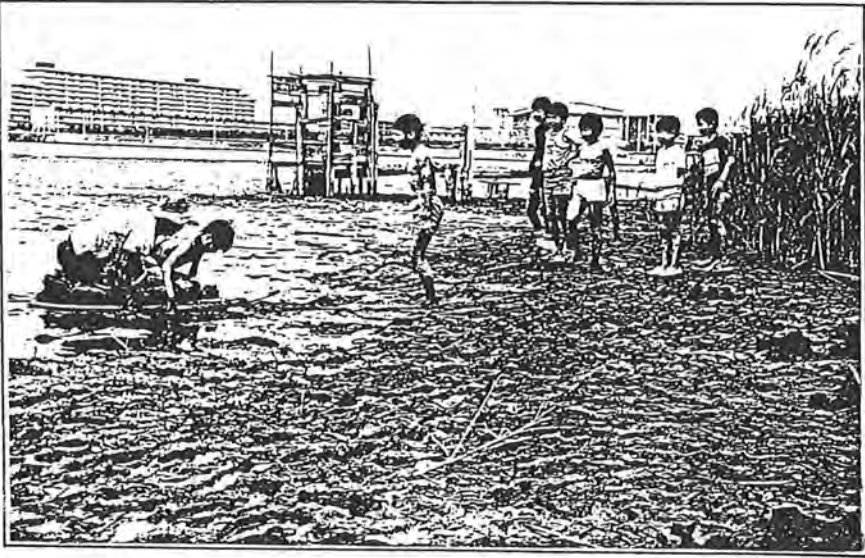
ゴミの種類は、建築材料、家庭用品など。袋の中味は石やガラスやセトモノ類など。

とくに現在は、15年以上にわたって燃やされてきた、層を成す灰とゴミと燃えカスの山である。

しかし「西部戦線」、まだ7月に本格的に始まったばかり。冬は力仕事季節。ゴミの山は更に大きくなっていく。



授業は10月に行なわれます。

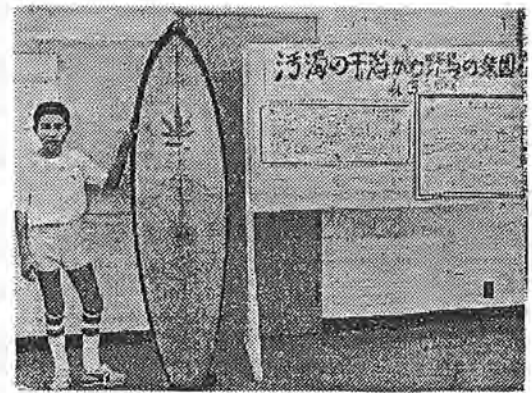


去る8月6日、
習志野文化ホー
ルで写真展を開
きました。
同時に、「ありし
日の谷津干潟周
辺と赤銅色の子
供達」の絵と。
「はだしのゲン」
2の上映日に。

千葉市松波の西
家信さんから、潟
スキーに使うサーフ
ボードを頂きました。
クリーン作戦西部戦
線に投入し、十二分に働
いてもらいます。

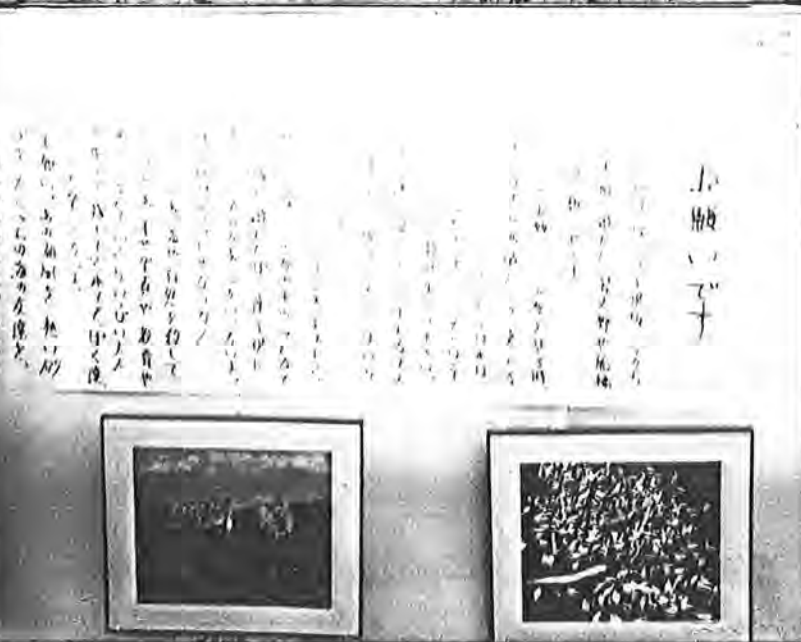
まち・人
はなし

ありし日の谷津干潟周辺
と赤銅色の子供達



谷津干潟の写真展
習志野
習志野市の谷津干潟の自然を
取り戻そうと、十二年間干潟の
清掃活動を続けていた同市谷津
三丁目、タラシ運転手森田三
郎さんの写真展が、一日か
ら五日まで同市菊田公民館で開
かれている。干潟に生息してい
る動植物や清掃活動の記録など
約千点。
「たった一人の挑戦」と題し
た写真に、森田さんはこんな説
明をつけている。「ほくは、ふ
るさとの海がかわらぬように
た。黙って見ていられたらなかつ

た。何とかして助けてやりたい
と……そして始めた。いま
まで仲間が増えたが当初は一
人きり。一本が泥で汚れて恥ず
かしいと思つたことが、恥
ずかしくつた」と当時を思い出
す。
会場には、五月三十一日の
本紙千葉版「善意のボード干潟
に波紋」の記事を眺め、「森田
さんの活動の指針にたは」と
千葉市松波町四丁目の会社員西
家信也さんが寄贈したサー
フボードも展示し写真左上。森
田さんは「これまで潟の潟スキー
が壊れたので、最高のプレゼント
です」と感謝していた。



子供達を潟ス
キーにのせて
この夏、ずい分た
くさんの子供達を潟
スキーにのせてやり
ました。
小学校一、二年生は
のってるのに精一杯で
すが、三、四年ときな
れば、そうちゃんと働
けるのです。

いっしょに手でこいでと
らうと、ぐっと楽になり、ス
ピードもぐっと出ます。
が、タダではのせない。
ゴミを見つけてとらった
り、小さなものは拾ってと
らうのです。
みにしろ、私の先に座つ
ているので、「ほぐっ、あす
こおーノ、レ」ってな具合に。
その代り、カニの穴に手を
入れ、つかまえ方を、伝授

ふかんど

第375号

1986.9.20

谷津干潟愛護研究会
 〒275 習志野市谷津三二二五十一
 電話〇四七四一五〇四四
 文責 森田三郎

会費年 2000

創立 1974.12.9

事務局 0474-51-7076 中村容子

ショウブはヤゴの御宿おやどです

宮川さん、ちよこと聞いてくださいよ
 あんたが植えた ショウブはね
 ぼくたちヤゴの脱衣所さ
 赤チン・シオカラ・ムギワラと
 ハネサントンボにチヨウトンボ
 わんぱく子供が 憧れる
 トンボのチャンピオン ギンヤンマ
 みんな ショウブが 小るさとさ



つがいのギンヤンマが ショウブにとまって、水の中に卵を産む。

赤トンボが、ブルッブルッと何回ど、
やっどさっどこ、カラが出てきた。



メダカの池で腹ツッぱい
 おいしーいホウフフ食べました
 涼しい夏の朝のこと
 ショウブを登ってヨッチヨチ
 カラを脱ぐのさ ウシコラショッノ、
 トンボになっどぼくたちは
 真夏の空にざっざうと
 メダカの池で宙返り
 「宮川ショウブ」のおかげですノ、

クリーン作戦協力の申し出

このたび、旧遊園跡地で団地を建設
 している住宅・都市整備公団より、ク
 リーン作戦に協力をしたいとの申し出
 がありました。

更は何回と言われていたのですが、初
 めは遠慮して断わっていました。森田
 と他の人に黙っていました。すみません。

才一回目は、谷津小の子供達といっしょに、合同クリーン作戦を計画しています。

でど、公団が何回も言ってくるの
 で、本気かなと思ひ、みんなに相談し
 てみました。誰一人として異在はなく、
 喜んで協力して頂くことになりました。
 今から6年前にも、日本道路公団・
 前田建設・竹中土木が作業員と重
 機類を投入して協力してくれまし
 た。地ひびきを立ててゴミをすくい
 とるパワーに目を見張ったものでした。

ふかんど

第376号

1986.9.25

谷津干潟愛護研究会
 〒275 習志野市谷津三二五-11
 電話 0474-51-5044
 文責 森田 三郎

会費 年 2000

創立 1974.12.9

事務局 0474-51-7076 中林容子

発生から3年
追跡調査

昭和58年に初めて藻が発
生して以来、ずうーっと観察
し続けてきました。

最初に見つけた時より
ご今は、ふさの大きさが

3倍近くと大きくな
っています。

藻は「コアママ」。
谷津干潟再生の確実
な、動かし難い「指標」
です。それは単に、

珍しい鳥が来たのと
は比較になりません。
藻は、干潟の保水能
力を高め、安定させ、
カニや魚が卵を産む
所でもあります。

今年に新たに、ノ
リも発生しました。
クリーン作戦にとっ
て、大きな妨みですゆ。

写真上は堤防の上か
ら。下はすぐ近くから。
心配は、カモに食べら
れることと、子供達に踏
みつぶされることです。



巾12cm、長さ20cmぐらい。トロ
ガメかクサガメでしょう。 8/12

カメって、意外と早足です

夕焼けがきいかな日。作業を終え
て、干潟を渡ってくる風に当って休
んでいた。ふと、足もとを、すっす
と何かか石垣の斜面を動いた。鉄
板かかめらがこころがっていったかと
思った。

して、少時くすると又動き、草の
灰みづたいに歩いて、かけていく。何
とそれは、カメだったのだ。

昔はいっぱいいました。

谷津干潟では今まで、三種類の大きさのカメを見えています。

「わらじ」を作らんとすって 岡本文良氏来鴻 ママと花輪作ってんの

「生活を豊かにするとは何か……」、山中さんという人は一つの教示を持っている。



山中トキさん
 山中さんが、写真の草を使ってわらじを作ってくれたそうです。山中さんは3年前にわらじを作り、それを試してみんな感心してしまいました。秋津老人会(くすの木会)の副会長さん。

この人、愛想がよくて物腰はやわらかい。が、いわゆるシンはしっかりしてらっしゃいますよ。いい意味でおっかない人で、長い人生のいろんな経験から来る、その人となりの心さばき、身辺の物を利用して向から作る手さばきは、本当に教えられることが多い。

「とりもどせ、ぼく達の海」の作者、岡本文良氏が干潟へ森田に会いに来てくれました。つまり「来鴻」児童文学者として高名な岡本さん、ほんとにすみません。今まで何度も来てるんですって。そして目下、車の運転の練習をしているとのこと。本が出版されたのは2年前、お世話になりました。

あれえ、いいなあ、ママにクローバーで花輪を作るの教わってんの。そう、へえ、そばにお人形おいて……。ミッキーちゃんはベンチの上でぬんぬしてんだね。どあ？、うんまくいくう、作れるうわ。あれえ、いいなあ、ママ。このクローバーはまゆりにいっぱい咲いてるんだから。ベンチ、使ってくれてありがとう。草むら、とってきい気持でしよう。ヒバリがペイチク鳴いてらあ、いい日だ。赤ちゃん、何考えてんのかなあー。

ふかんど

チ377号

1986.10.2

谷津干潟愛護研究会
 〒275 習志野市谷津三二二五十一
 電話〇四七四一五〇四四
 文責 森田三郎

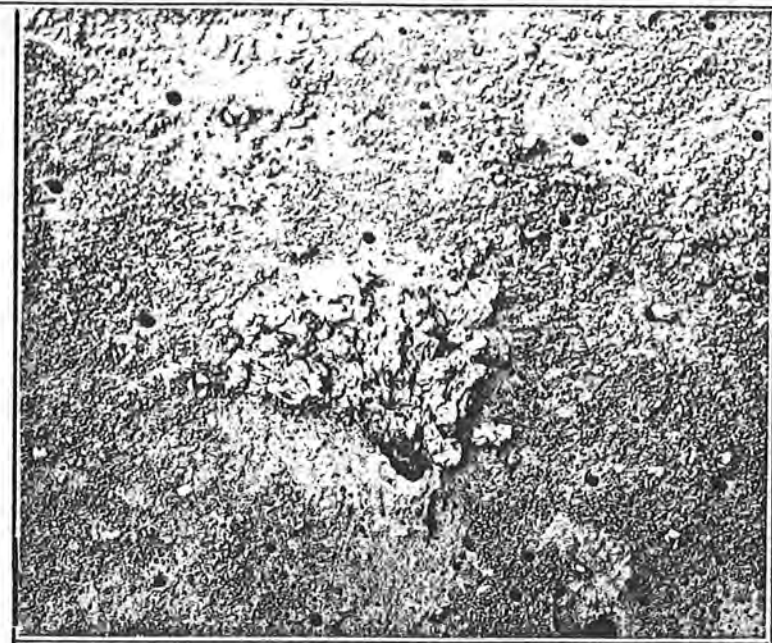
会費年2000
 創立 1974.12.9

事務局 0474-517076 中村容子

営々たるカニヤゴカイ

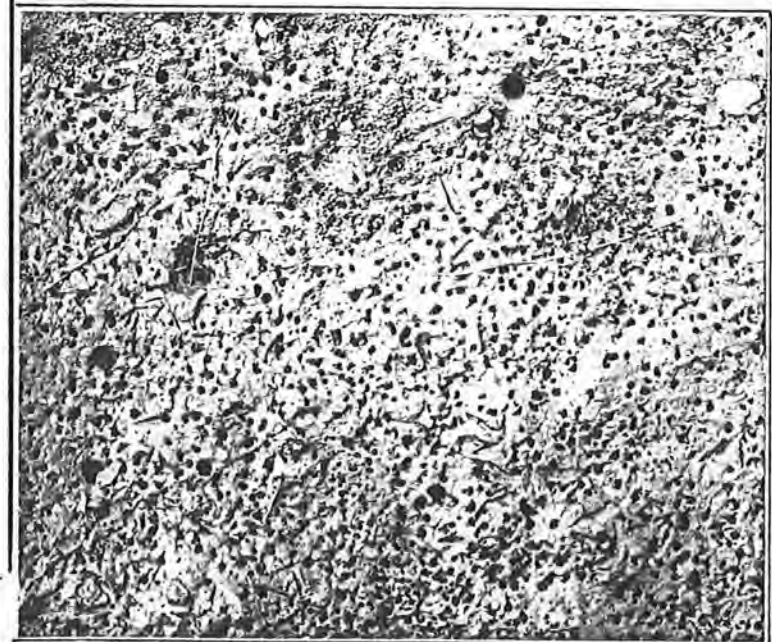
カニガゴミをどかさねると巣穴をつくってゆく。それだけ、干潟が水と空気に融れる面積が大きくなる。一丈、とみほぐされた砂と泥は、とくに粒子の細かい泥は、波に洗われ

て、潮の流れにのって毎日少しずつ出ていくのである。ヘドロはそれ以上に。ゴカイと同じく、干潟の上をおおっているゴミを除くと巣を作り、その面積を広げていく。そして海水の中の生ゴミなどを食べ、純粋の海水を体外に出す。クリーン作戦は、そのお手伝いなのだ。



↑ アシハラガニの穴と掘られた砂と泥の山。やわらかくなった泥が潮に流されてゆく。

↓ おびただしいゴカイの穴。干潟に穴をあけ、海水の中のプラシクトンを食べる。



夏雲を友として

夏の日々、泥と水、ガレキなるゴミの



向ではいつくばりフフ、こんな夏の雲をいつも見続けていた。

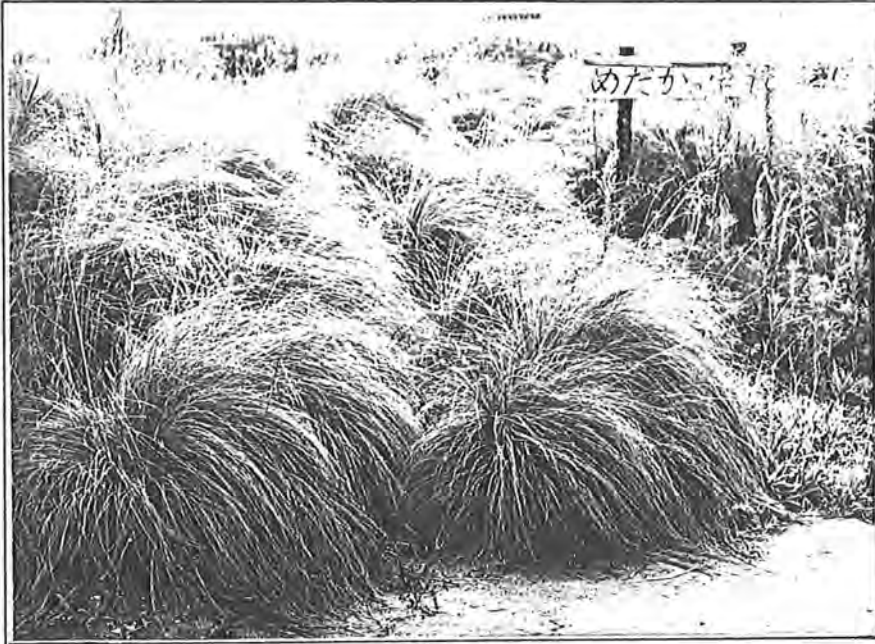
大好きだ。オレはあの入道雲が大好きだ。ただ、見ているだけでいい。むく／＼と湧きのぼる、まっ白い入道雲が出ていると、もうそれだけで武者振りがする。元気が、力が出てくる。ああ、お前、入道雲よ、ありがたう。今年も雄渾な姿を見せてくれて、なつかしく、うれしいよ。

夏雲は、オレを、ターザンかゴリラのよう

にさせる“何か”がある。

「わらじ」を作らんとすって 岡本文良氏来鴻 ママと花輪作ってんの

「生活を豊かにするとは何か……」、山中さんという人は一つの教示を持っている。



あれえ、いいなあ、ママ
にクローバーで花輪を
作るの教わってんの。
そう、へえ、そばに
お人形おいて……。ミ
ツキーちゃんはベンチ
の上でぬんぬしてん
だね。

いっぱい作んなあ、
ここのクローバーはま
ゆりにいっぱい咲いてる
んだから。
ベンチ、使ってくれて
ありがとつ。草むら、
とってそいい気持ちでしょ
う。セバリがペイチク
鳴いてらあ、いい日だ。
赤ちゃん、何考えてんの
かなあ……。

「とりもどせ、ぼく達の返しの
作者、岡本文良氏が干潟へ森田に会
いに来てくれました。つまり「来鴻」。
児童文学者として高名な岡本さん、
ほんとにすみません。今まで何度と来
てらんとすって。そして目下、車の運転
の練習をしているとのこと。本が出版さ
れたのは二年前、お世話になりました。

山中トキさん

山中さんが、写真の
草を使ってわらじを
作ってくれるようすです。

山中さんは3年前に
わらじを作ら、そ
れを見てみんな感心し
てしまいました。
秋津老人会(くすの
木会)の副会長さん。

この人、愛想がよくて物
腰はやわらかい。が、い
わゆるミンはしっかり
してらっしゃいますよ。
いい意味でおっかない人。
で、長い人生のいろん
な経験から来る、その人

となりの心さばき、身辺
の物を利用して向から作
る手さばきは、本当に
教えられることが多い。

ふかんど

第378号

1986.10.6

谷津干潟愛護研究会
 〒275 習志野市谷津三二二五十一
 電話〇四七四一五〇四四
 文責 森田三郎

会費年2000

創立
1974.12.9

事務局0474・51・7076 中村容子

干潟の作業にそなえて

この間、9月29日に破傷風の注射をしてきた。種田さん、松枝さん、森田の三人で谷津保健病院に行った。

実はこれは、種田さん達のはからいによるものであり、とんずつと以前から注射をしておくように言われていたのである。種田さん松枝さん、心配してくれてどうもありがとうございます。お金まで出して頂いてすみません。

でど、事実、考えてみれば、干潟の作

ぶっくわ自動車

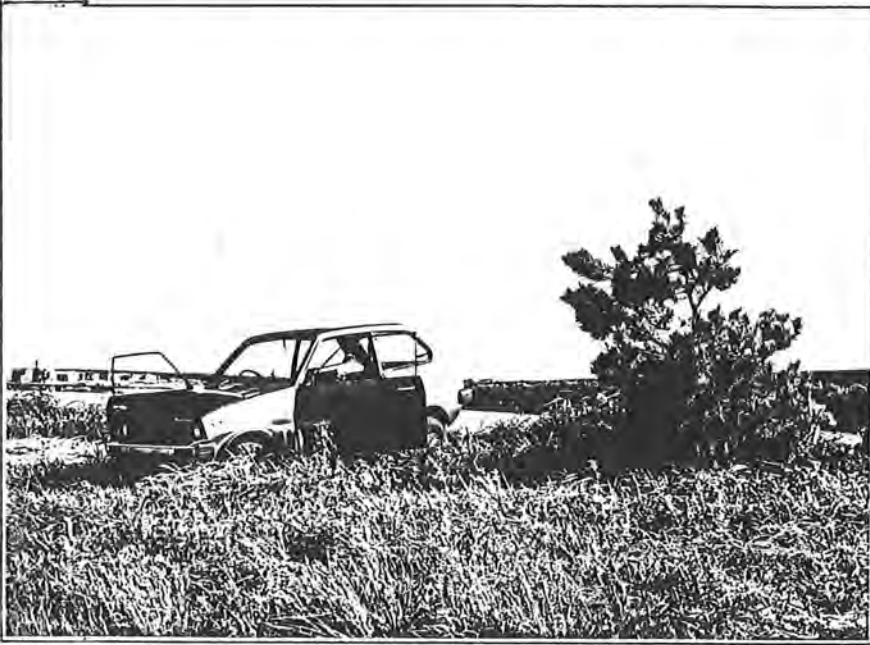
夏草に埋とれるようにして捨てられていた。窓ガラスはなく、ドアも開き放し。いつの頃からこうなったか知らな

い。今は子供達の遊び道具になってる。

ぶっくわ自動車のすぐゆきに、黒々としたゴミの山がある。

いつを見ていた。夏の匂は、毎日この車を見ながらの作業であった。ここに一輪車や鴉スキーを置き、屋根に時計、牛乳、ジュース、食べもの、手ぬぐいなどの荷物をのせた。屋根の鉄板は、夏の太陽で焼け、手で触ると熱かった。

シートはすっかりして、私の車のととり変えたい程だ。雨やどりとした。なんだかんだするうち、いつしか、このぶっくわ自動車に愛着すら抱くようになってしまった、夏の想い出だ。



まわりの草むらにはバツヤコオロギがいて、よく子供産がとりにきていた。

おや、まあー

ザリガニの赤ちゃん、見つけた

ザリガニいっぱい、子供もいっぱい

今年とメダカの学校に、ザリガニが
たくさん産まれた。水辺に行くと、パッ
パッと、水の中で砂や泥を舞い上げて

逃げていくのをよくわかった。

子供連れのお母さん産がたたくさん
見に来て、とってやっていた。よーて、池
が浅いのが災難、一匹もいなくなつた。



丸坊主のヨシキリの巣

7月、会員の長塚進吉氏が出勤途
中、オオヨシキリの巣を見つけた。

場所はビバ50のすぐ近く。つい数日前
まではヨシが茂っていた。よこをきれいに
刈ってしまったのである。巣の所、直至50

cmぐらいの茂みを残して。

刈った人は、巣があるのがわかって、
よこだけ残したのだらう。が、巣は丸
見え。中村容子さんが心配して見に
行った。近づく、ふた親があどすよ
うに鳴きながらあちこちと。
でど、ヒナ産は無事に育ったのです。



ふかんど

オ379号

1986.10.10

谷津干潟愛護研究会
 〒275 習志野市谷津三二二五十一
 電話〇四七四一五〇四四
 文責 木森田三郎

会費年2000

創立
1974.12.9

事務局0474・517076 中村容子



右の方の堤防に「汐干掬入口」と書かれています。上を走っているのは京葉道路である。

潮は大潮 船橋音頭 干潟一里は街の庭

これは、昔の船橋音頭の一節である。しかし今は、その歌を面影もない。当時、谷津干潟が「ふかんど」と呼ばれていた頃は、あの広大な干潟は市民の「庭」であった。とくに、私産子供にとってはそうであった。赤銅色の子供産にとって干潟は、庭であり、遊び場であり、心身を育んでくれた教育の場であった。

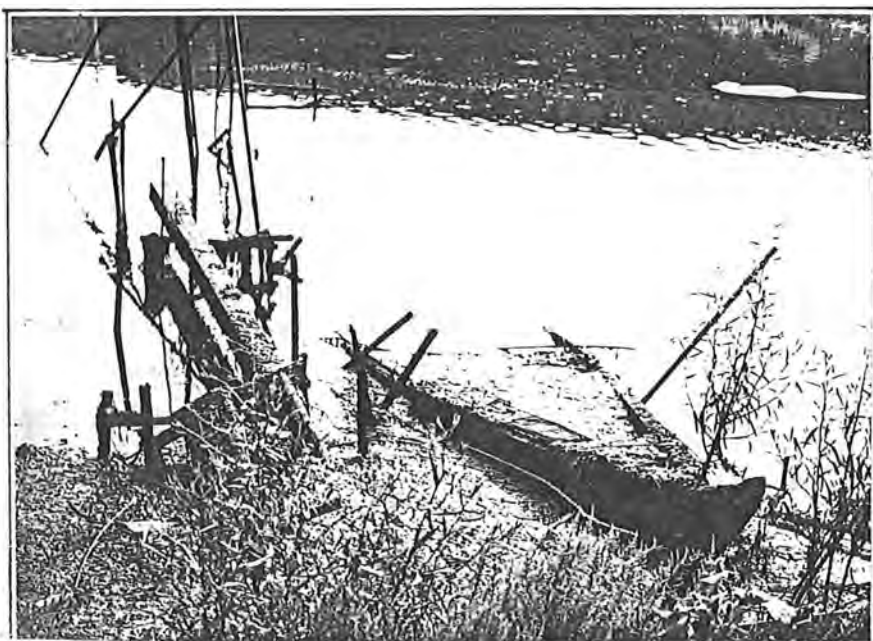
しかし、埋め立てによる開発と共に、あちこちに杭が立ち、柵が立ち、鉄条網が張り、赤い旗が立ち始めた。私産子供は、ついきのうまで遊んでいた所なので、何の

谷津の船溜り

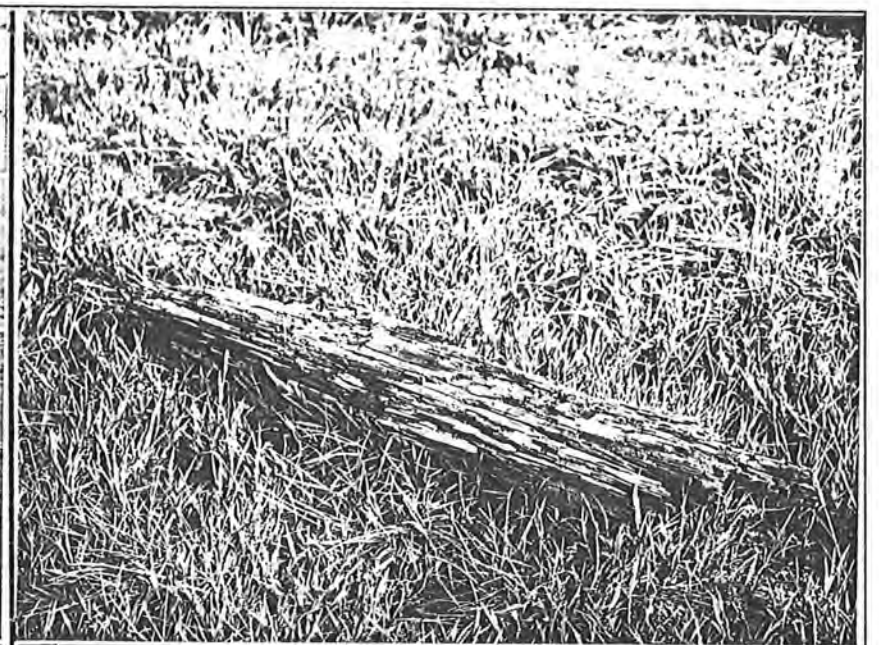
気なしにいつものように入っていたり、「おい、こっちはだめだ、あっちに行け」と言われた。毎年夏のくり返して、沖へ沖へと遊び場は追われていった。

東水路のどんぶりまりにある。今はまったくの厄介モノにされていく。昔はノリ船やアサリを積んだ船、帆かけ船が浮んでいた。干潟の砂を掻って、船が浮かべるよついつき水があった。つまり潮溜りで、今のようコンクリートとなんにもない。ただそれだけの、原始的な港である。ここから船が沖へ出る為、干潟の中に凧を振り、そこを船が通った。船みちと呼んでいた。その船みちを作らないうと、干潮時には船が沖へ出られなかった。

今は朽ち果て、使われなくなった棧橋と船。時々魚がはね、サギがとまっている。



ベンチのまわりで



首つりの木

おそろしい形の流木を見つけました。長さ8メートル程の。ゴミ集め場に捨ててしまふのには、勿体ないと思った。私の心に、子供の頃のイタズラッ気がこみ上げてきた。「これ、何とか使っちゃよってやってみよう」とってな具合に。それで、あずま屋・いとしぎの近くに立てました。どうですか？、こんな調子に……。称して「首つりの木」。

ここで生まれたカモは

人を余り警戒しないのです。つまり、谷津千鳥で今年生まれ、ここで大きくなったカルガモです。千鳥のすぐ近くに住み、毎日、朝々夕な散歩かたで観察している会員の山岸さん。話しによると、三つがいは確かに繁殖し、ハシ十つがいの親子がいたと言いつ。カルガモはカモの中でも特に警戒心が強いのですが……。。

朽ちゆく流木

これ、ベンチの木だったんです。どう、8年どの月日が過ぎました。ホロ／＼に腐っちゃって、打ち込んであったカスガイときかなくなつたのでしよう。ごろりと、秋の草むらにころかっています。今まで、たくさんの人達を座らせ、休ませてくれました。流木よ、ありがたう。君を作った頃のことを思い出すなあ。この下でコオロギが鳴っていた。

静かな秋晴れ

ふかんど

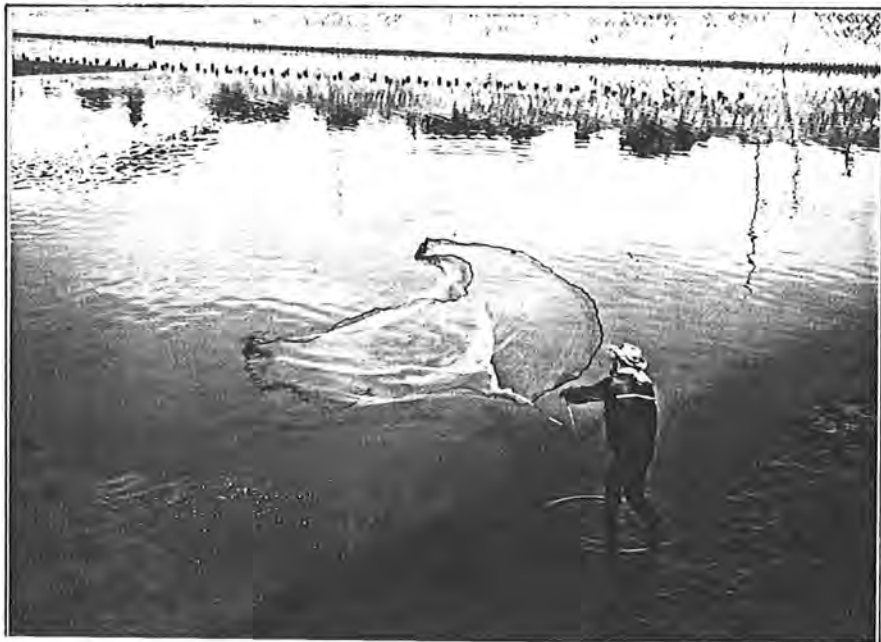
オ380号



近くの人がススキの穂をとりに来ている。
きらいで、少し淋し気な今日この頃。

そこそこのオルゴール
それは、みんな持っている。
で、それは、あるのだけれど、
毎日の生活の騒しさで、聞えない
のです。あるのを、持っているのを、
忘れてしまっているのです。
で、それは、いつでも、どんな時
にも鳴っているのです。
にぎやかな時、得意絶頂の時、そ
して、淋しくて孤独な時、失意悲嘆
の時に。で、心のオルゴールは
はいつも、大きくと小さくもなく、
変らない調べを鳴らしているのです。
うそではありません。どうですか
みなさん、ひとつ、試してみませんか、
行ってみませんか、心の地下室へ。

無数の銀リンが光る。波一つない水面。
バァーシャと、投網を打つ。のど
かな秋の日。水はもう冷たいくらい。



ローラ・インガルス・ワイルダー



そこへ行くのに、なんの証明と、主
義と、資格と、どんなはからいもいり
ません。
で、ひとつだけ、お願いがあるので
す。すべての「荷物」を、その入口に
置いていって下さい。とくに、「心の荷
物」を。ふだん、私達は、あんまりにも
いっぱい、欲張って持ち過ぎています。そ
の為、疲れて、固く、こわばり、内心みじ
めになっている。で、でしょ。
すぎし日へ還れ すぎし日へ
お、時よ 汝旅路を翔けるとき、
雨れを幼な児にしてよ
せめて今宵は

事務局 0474・517076 中村容子

1986.10.19

谷津干潟愛護研究会
〒25 習志野市谷津三二二五十一
電話 0474-511504
文責 森田三郎

会費 年2000円

創立
1974.12.9

なんとかしなぐっちゃ、

あの、この数字はですわ、つまり、作業用ゴム手袋のこと。左右の手袋が損耗する割合である。

そう、6は右。1は左。右は損耗がひどくって次々と新しいのとり代るが、左はそれ程でもない、はるかに。だから、残るのは左ばかりで、右

の方は片っぱしからなくなっていく。それかひどいのである。とったいな。

かといって、お店は左右揃いでしか売ってくれない。まさか右手だけとはいくまい。実際、試しに主人に言ったり、それは困るとのこと。何しろ右は、石やガラスをカッぱい拾うからぬ。

で、考えて、今は左手袋をひっくり返し、右にして使っている。

船橋市立船橋小学校

10月13日(月)。辰馬進校長先生

をはじめ23名の先生方を谷津干潟に案内しました。

午後2時、谷津南小学校で会い、教室で30分程自己紹介を兼ねて話しをした。

内容は、昔の谷津干潟、環境保全、

運動の流れなどです。

懐かしき顔が

「森田さん、私が校長の辰馬です」と、その顔を見た時、どこかで懐えがあった。で、「先生は、もしかしたら、宮本小学校にいませんでしたか？」と聞いたら、「ええ、昭和30年前後です。森田さん、想い出しましたよ、ふかんどせ」と。



アオサギとダイサギ(マントリ目サギ科) 秋になると繁殖を終えたサギの仲間が干潟に集まっています。アオサギは、上面が青みをおびた灰色で頭首腹が白く、目の上から冠羽にかけて黒い。日本にいるサギ類中最大で九十センチ。全身が白いダイサギも大型で、首の長いスマトラ鳥です。潮が満ちると、水路を通じて大小の魚が群々入ってきます。アオサギがつかまえた大きなボラと、ダイサギとウミネコ若鳥が狙っています。干潟では獲物めぐり、水鳥達の追いかけっこが見られます。

五十嵐吉夫氏の写真提供によるテレホンカードがまたたく出来ました。今度のは、アオサギが魚をくわえているところ。そばでコサギがソッポを向き、ウミネコが物欲しそうに見上げてる。さすが五十嵐さんだ。

ATに聞いてみたり、すごく好評で、すべて完売のことです。

◎辰馬校長先生より、カンパ5000円を頂きました。

我が家の玄関、手袋の死体だらけ。